

令和5年度 第2回

進路説明会資料

令和5年10月26日(木)



雀学園三鷹市立第一中学校
進路指導部

3年 組 番 氏名

目次

都立高校入学者選抜について

① 選抜の種類と目的	2
② 推薦に基づく選抜の目的	2
③ 主な日程	2
④ 今年度からの変更点	3～4
⑤ 推薦に基づく選抜	5～11
⑥ 学力検査に基づく選抜	
(1) 第一次募集、分割前期募集	12～20
(2) 第二次募集、分割後期募集	20～22
⑦ 特別措置	22
⑧ インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する追検査	23
⑨ その他	23
参考 東京都立産業技術高等専門学校	24～26

私立高校について

① 推薦入試	27
② 一般入試	28
③ 併願優遇制度について	28～29
④ 入試相談	29
⑤ 自己推薦	29
⑥ 出願書類	29
⑦ 推薦基準にかかわること	30
推薦受験（検）資格の認定について	31
◇今後の提出物・手続きなどについて	32
① 志望校が決定したら	32
② 受験写真	33
③ 手続きにおける氏名等の記載について	33
④ 調査書に記載する「部活動の記録」について	33
⑤ 地域優遇・指定校推薦	34
◇受験（検）の基本的な手順	34
私立高校入試の流れ	35～36
生徒の皆さんへ	37
保護者の方へのお願い	37
◇2学期進路関係の予定	38
資料 出願書類についての注意事項等	39～40
資料 入学願書記入例	41
資料（都立出願関係書類各種様式抜粋）	42～43

◇都立高校入学者選抜について

※詳細は「東京都立高等学校募集案内」（以下「募集案内」）または、東京都教育委員会のホームページ「都立学校への入学」（右QRコード）でも確認できます。



1 選抜の種類と目的

I 推薦に基づく選抜

ア 一般推薦 イ 文化・スポーツ等特別推薦 ウ 特別推薦（理数）

II 学力検査に基づく選抜

ア 第一次募集・分割前期募集 イ 第二次募集・分割後期募集

※分割募集…あらかじめ募集人員を分割し、第一次募集期間における募集（分割前期募集）と第二次募集期間における募集（分割後期募集）の2回に分けて募集を行う学校。分割後期募集では面接が必ず行われるほかは、第二次募集の入試と同様に行われます。令和6年度入試での実施校数は、26校で実施されます。

2 推薦に基づく選抜の目的

ア 一般推薦

基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力や、自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。

イ 特別推薦

各都立高校の個性化・特色化を推進するため、卓越した能力をもつ生徒の力を評価し、選抜する。

ウ 特別推薦（理数）

科学技術の根底にある理数系分野の素養を前提に、探究の過程を通して、課題を解決する力や、他者の考えから自分の考えを深めるとともに、新しい価値を生み出す創造性など、変化し続ける社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する

3 主な日程

		入学願書受付期間	検査実施日	合格発表日
推薦に基づく選抜		1月12日（金曜日） ～18日（木曜日）	1月26日（金曜日）・ 27日（土曜日）	2月 2日（金曜日）
学力検査に基づく選抜	第一次募集及び 分割前期募集	1月31日（水曜日） ～2月6日（火曜日）	2月21日（水曜日）	3月 1日（金曜日）
	分割後期募集及び 全日制第二次募集 （インフルエンザ等 追検査）	3月 6日（水曜日）	3月 9日（土曜日）	3月14日（木曜日）
	定時制第二次募集	3月21日（木曜日）	3月26日（火曜日）	3月27日（水曜日）

4 今年度からの変更

(1) 男女合同選抜の実施

- 令和5年度入学者選抜では、第一次・分割前期募集における全日制普通科の108校において、男女別に定めた募集人員に基づいて合格者を決定する男女別定員制で選抜を行ったが、令和6年度入学者選抜では、男女合同で定めた募集人員に基づいて合格者を決定する男女合同選抜に移行する。
- 令和5年度入学者選抜では、推薦に基づく選抜の一般推薦においては、全日制普通科の103校において男女別定員制で選抜を行ったが、令和6年度入学者選抜では、男女合同選抜に移行する。文化・スポーツ等特別推薦を実施する学校のうち、各学校が定める一部の種目等においては男女別に募集人員を定め、その募集人員に基づき選抜を行う。

(2) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を踏まえた主な対応

- コロナ禍において、感染拡大を防止する観点から中止していた集団討論は、必要と判断した学校で実施する。
- 文化・スポーツ等特別推薦では、受検者同士の接触を伴う検査を可能とする。
- 文化・スポーツ等特別推薦及び理数等特別推薦では、コロナ禍において学校生活を送った受検者の実情に鑑み、出願の基準に大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めず、「実績等を証明する書類等の写し」の提出も求めない対応を継続する。
- 新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる者等への対応として、令和4年度入学者選抜及び令和5年度入学者選抜において実施した「追々検査」は実施しない（第一次募集の検査日当日に新型コロナウイルス感染症を含むインフルエンザ等学校感染症に罹患した者、学校保健安全法第19条により、中学校長が出席停止の措置を行った者を対象とした「追検査」については、継続して実施する。）。

(3) 出願手続（入学願書等提出方法）

- 令和5年度入学者選抜から全校で実施したインターネットを活用した出願を、海外帰国生徒対象4月入学生徒の選抜においても実施する。なお、調査書等出願に要する書類については、引き続き、郵送により提出する方法とする。
- インターネットを活用して受検者自身が選抜の結果を照会できる合否照会サイトを、推薦に基づく選抜、第一次・分割前期募集のほか、分割後期・第二次募集、海外帰国生徒対象の選抜、引揚生徒対象の選抜、在京外国人生徒対象の選抜、国際高校バカロレアコースの選抜に対応できるよう拡充する。

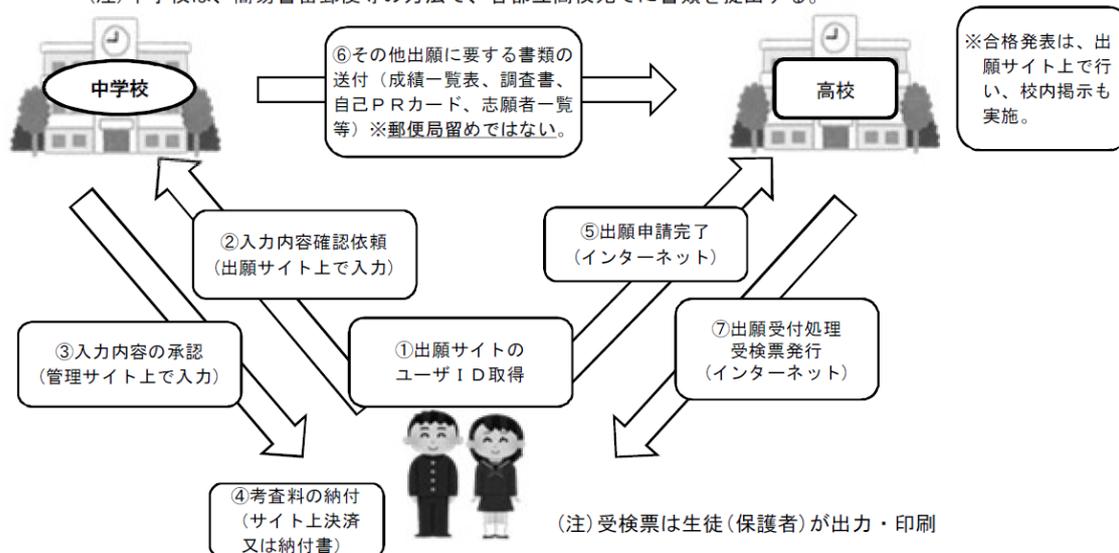
※昨年度より、全ての都立高校がインターネットによる出願となりました。インターネット出願の流れは、以下の通りです。

- ①志願者が出願サイトから申し込み
- ②中学校側で入力内容を確認、承認
- ③志願者が出願申請完了手続きを行う
- ④志願者が各自で受験票をダウンロードし、プリントアウトする

※提出書類は中学校から高校へ送付するので、志願者の記入が必要な書類は、中学校に提出してもらいます。また、出願期間は1月18日までとなっており、郵送の期限も1月18日必着となっているので、本校での締め切りは、書類の提出を含め、1月12日とします。

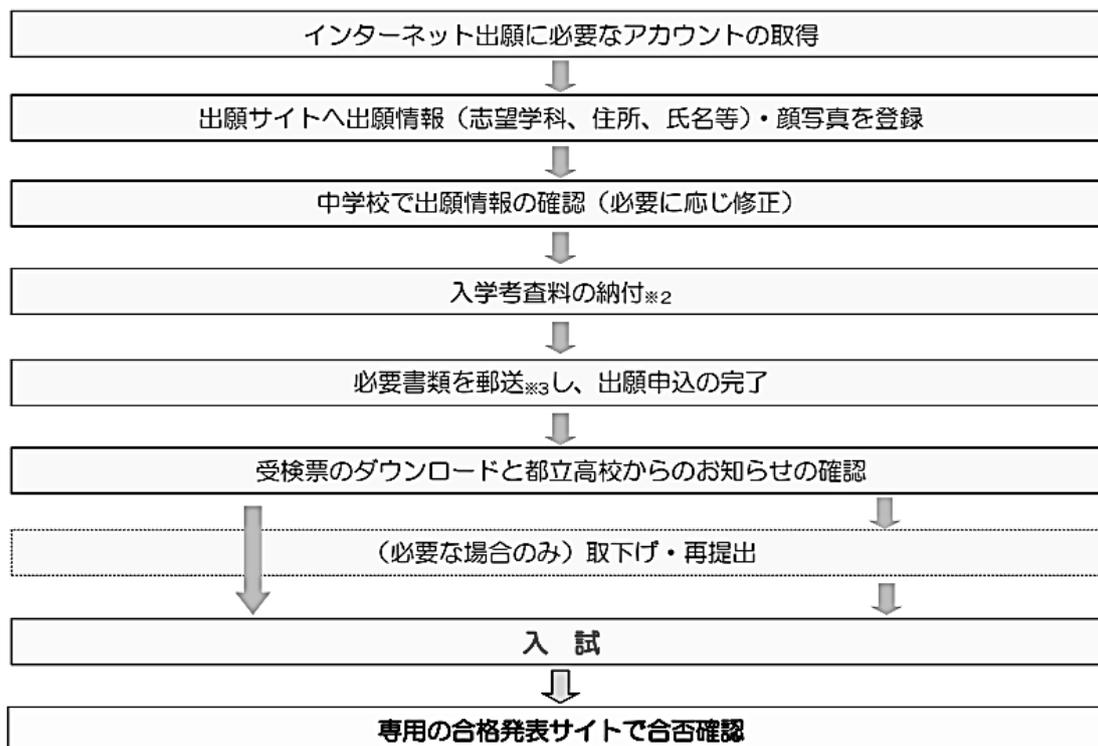
インターネットを活用した出願について

(注) 中学校は、簡易書留郵便等の方法で、各都立高校宛てに書類を提出する。



※やむを得ずインターネット出願を行えない志願者は所定の入学願書を用いて出願を行う。

6



※1 都外在住者・既卒者については手続きの流れが一部異なります。

※2 入学考査料の納付方法は、納付書の他、クレジットカード払いも対応しています。

※3 郵送により提出する書類は、中学校を通じて各都立高校に送付します(都外在住者・既卒者を除く)。

- 出願に際し、所定の出願書類の他、顔写真のデータを準備する必要があります。
 - インターネットに接続できる環境(パソコン・スマートフォン・タブレット端末)が必要となります。また、受検票はご家庭のプリンターやコンビニエンスストア等で印刷する必要があります。
 - 事情があり、インターネット出願を行えない方については、別途対応があります。
- ※令和5年6月現在の検討状況に基づくものであり、今後変更される可能性があります。

5 推薦に基づく選抜

事 項	日	時
出 願	インターネットを活用した出願（以下「インターネット出願」という。）を行い、かつその他出願に要する書類については、下記書類提出期間必着で、各都立高校に簡易書留郵便等の追跡可能かつ対面で受け渡される方法により郵送したものを受け付ける。 [入力期間] 令和5年12月20日（水）から令和6年1月18日（木）午後5時まで ※ 入力期間とは、インターネット出願において、インターネット上の出願サイト（以下「出願サイト」という。）に志願者情報等を入力することができる期間のことである。以下、本実施要綱において同じ。 [書類提出期間] 令和6年1月12日（金）から1月18日（木）まで（必着） ※ 書類提出期間とは、出願サイトへの入力に加え、出願に要する書類を志願先の都立高校へ提出する期間のことである。以下、本実施要綱において同じ。	
検 査	令和6年1月26日（金） 1月27日（土）	
合格者の発表	令和6年2月 2日（金）	午前8時30分（インターネット上の合否照会サイト（以下「合否照会サイト」という。）で発表） 午前9時30分（校内掲示）
合格者の入学手続	令和6年2月 2日（金） 2月 5日（月）	午前9時30分～午後3時30分 午前9時～正午

(1) 一般推薦

I 応募資格

次のア～ウまでのすべてを満たし、**志願する都立高校を第一志望とする者。**

- ア 令和6年3月に中学校を卒業する見込みの者
- イ 一般推薦に志願する意思があり、中学校の校長の推薦を受けた者
- ウ 令和5年12月31日現在、都内に住所をもち、保護者と同居している者で、入学後も同じく都内に住所をもって、都内から通学する者

II 出願方法

志願者は、1校1コース又は1科（1分野）に限り出願できます。**志願変更はできません。** 志望する同一の都立高校内にある同一の学科内に2科（2分野）以上ある場合（芸術に関する学科を除く。）は、第2志望として他の1科（1分野）に限り指定することができます。ただし、同一の都立高校内に普通科とコース、農業科と家庭科等、複数の学科がある場合は、それぞれ別の学科として扱うため、一方を第1志望とした場合、他方を第2志望に指定することはできません

- (例1) 第1志望を八王子桑志高校の産業科のデザイン分野とした場合、同じ学科のクラフト分野を第2志望に指定することができる。
- (例2) 第1志望を小平高校の外国語コースとした場合、普通科を第2志望に指定することはできない。
- (例3) 第1志望を瑞穂農芸高校の農業に関する学科の園芸科学科とした場合、同じ学科の畜産科学科を第2志望に指定することはできるが、家庭に関する学科の生活デザイン科を第2志望に指定することはできない。
- (例4) 第1志望を六郷工科高校の工業に関する学科のデュアルシステム科とした場合、同じ学科のプロダクト工学科を第2志望に指定することができる。

Ⅲ 出願書類

- ア 一般推薦書 ⇒ 中学校で作成します。
- イ 入学願書 ⇒ インターネット出願では、出願サイトへ志願者情報を入力します。
- ウ 調査書 ⇒ 中学校で作成します。
- エ 自己PRカード ⇒ 中学校より配布します。受検者が作成します。電子ファイルで作成した場合、各自で印刷したものを中学校に提出します。
- オ 入学考査料 全日制2, 200円 ⇒ 出願サイト上での決済又は所定の納付書による納付となります。納付書による場合は、納付書裏面に記載の納付場所で納付した領収証書の画像を出願サイトにアップロードします。納付書は、中学校で配布します。

Ⅳ 検査内容

一般推薦の志願者全員に個人面接を実施します。集団討論については、必要と判断した都立高校において実施することができます。また、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査（以下「小論文又は作文等の検査」という。）のうちから、当該都立高校長が定めたいずれか一つ以上の検査を実施します。

Ⅴ 選考方法

- ア 選考は各高校があらかじめ定めた選考方法によって、調査書、個人面接（集団討論を実施する学校は集団討論を含む）、小論文又は作文等の検査を総合した成績（以下「総合成績」という）、入学願書による志望及び都立高校長が必要とする資料（自己PRカードを含む）により行います。
- イ すべての高校で、調査書における各教科の観点別学習状況の評価（全27観点）又は評定（9教科）のどちらか一方を調査書点として点数化します。ただし、エンカレッジスクールとして指定された都立高校は、観点別学習状況の評価を点数化します。評定を用いる場合、特定の教科の評定に比重をかけることは行いません。
- ウ 個人面接（集団討論を実施する学校は集団討論を含む）、小論文又は作文等の検査の結果については、各都立高校が適切に基準を定めてそれぞれ点数化します。
- エ 自己PRカードは、点数化しません。なお、個人面接に当たっては、自己PRカードを面接資料として活用します。

注意1：推薦入試で不合格であっても、第一次募集に再度出願することができます。

注意2：推薦入試で合格した場合、必ずその高校に入学しなければいけません。

◇調査書点の算出方法（評定を用いる場合）

$$\text{各受験者の調査書点} = \frac{\text{評定の得点}}{\text{評定の満点（45点）}} \times \text{調査書の満点}$$



◇調査書点の算出方法（観点別学習状況の評価を用いる場合）

$$\text{各受験者の調査書点} = \frac{\text{観点別学習状況の評価の得点}}{\text{観点別学習状況の評価の満点}} \times \text{調査書の満点}$$

※満点は各校で異なります。

(1) 推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦、理数等特別推薦）における調査書点について

- 推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦、理数等特別推薦）では、観点別学習状況の評価（全27観点）又は評定（9教科）のうち、どちらか一方を調査書点として点数化します。

以下の東京太郎さんの例で調査書点の点数化について説明します。

（例）東京太郎さんの各教科の観点別学習状況の評価及び評定

教科	国語			社会			数学			理科			音楽		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度												
観点別学習状況	I	II	III												
評価	B	A	A	A	A	A	B	C	B	B	B	B	B	A	B
評定	4			5			2			3			3		

美術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
B	A	B	A	A	A	A	B	B	A	A	A
3			5			3			5		

各学校が調査書点を点数化するときに、観点別学習状況の評価と評定のうち、どちらを活用するかと、各学校が定める調査書点の満点が何点になるかについては、11月上旬に発行予定の「令和6年度東京都立高等学校募集案内」に明示します。

各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価したもの
 A:「十分満足できる」状況と判断されるもの
 B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
 C:「努力を要する」状況と判断されるもの

① 各学校の求める生徒の姿に応じて、観点別学習状況の評価を調査書点として点数化する学校の場合

- ・ 9教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語（英語））の全27観点の評価（A・B・C）を点数化します。
- ・ 各教科の特定の観点を重視する学校（都立A高校）や、特定の教科を重視する学校（都立B高校）があります。

【都立A高校】 ○ 観点別学習状況のうち、「主体的に学習に取り組む態度」を重視する学校
 ○ 調査書点の満点が180点

〈重視する観点〉 A:10点 B:3点 C:1点 〈その他の観点〉 A:5点 B:3点 C:1点

教科名	国語			社会			数学			理科			音楽			
評価の観点	I	II	III													
都立A高校の配点	A	5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10
	B	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

▶ 「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」180点を「調査書点の満点」180点に比例換算します。

美術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)			評価の得点 の満点	調査書点 の満点
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III		
5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10	180	180
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

「都立A高校」を
受検する場合の
調査書点
127点

東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した127点となるので、
調査書点は、 $180点 \times 127点 \div 180点 = 127点$ となります。

- 【都立B高校】 ○ 数学、理科、美術、技術・家庭の教科を重視する学校
○ 調査書点の満点が390点

〈重視する教科の観点〉 〈その他の教科の観点〉
A:10点 B:7点 C:1点 A:5点 B:3点 C:1点

教科名	国語			社会			数学			理科			音楽			
評価の観点	I	II	III													
都立B 高校の 配点	A	5	5	5	5	5	5	10	10	10	10	10	10	5	5	5
	B	3	3	3	3	3	3	7	7	7	7	7	7	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

▶ 「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」195点を「調査書点の満点」390点に比例換算します。

美術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)			評価の得点 の満点	調査書点 の満点
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III		
10	10	10	5	5	5	10	10	10	5	5	5	195	390
7	7	7	3	3	3	7	7	7	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

「都立B高校」を
受検する場合の
調査書点
306点

東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した153点となるので、
調査書点は、 $390点 \times 153点 \div 195点 = 306点$ となります。

② 評定を調査書点として点数化する学校（都立C高校）の場合

- 9教科の評定を点数化します。各教科に傾斜配点を設けません。

【都立C高校】 ○ 調査書点の満点が450点の場合

▶ 調査書点は、 $450点 \times 33点 \div 45点 = 330点$ となります。

「都立C高校」を
受検する場合の
調査書点
330点

(2) スポーツ・文化等特別推薦

I 応募資格

次のア～ウまでのすべてを満たし、**志願する都立高校を第一志望とする者。**

ア 令和6年3月に中学校を卒業する見込みの者。

イ 特別推薦に志願する意思があり、中学校の校長の推薦を受けたもの。

ウ 令和5年12月31日現在、都内に保護者と同居している者で、入学後も都内から通学する者。

II 出願方法

志願者は、特別推薦を実施する都立高校の種目等のうちから1種目を指定し、1コース又は1科（1分野）に限り出願できます。**志願変更はできません。**また、当該都立高校の一般推薦にも出願することができます。この場合の出願方法は、一般推薦における出願方法によります。

III 出願書類

ア **文化・スポーツ等特別推薦書** ⇒ 各自で東京都教育委員会ホームページからダウンロード。

※担任に提出後、中学校で作成。

※推薦書には、大会等での実績を記入しません。また、志願者の活動の実績等を証明する書類は提出しません。

イ **入学願書** ⇒ インターネット出願では、出願サイトへ志願者情報を入力します。なお、**一般推薦を同時に志願する者は、特別推薦の内容と併せ、出願サイトに必要事項を入力します。**

ウ **調査書** ⇒ 中学校で作成します。一般推薦を同時に志願する者は1部のみの提出でよいです。

エ **自己PRカード** ⇒ 中学校より配布します。受検者が作成します。電子ファイルで作成した場合、各自で印刷したものを中学校に提出します。一般推薦を同時に志願する者は1部のみの提出でよいです。

オ **入学考査料 2,200円** ⇒ 出願サイト上での決済又は所定の納付書による納付とします。納付書による場合は、納付書裏面に記載の納付場所で納付した領収証書の画像を出願サイトにアップロードします。ただし、**一般推薦を同時に志願する場合は、一般推薦の出願にも入学考査料が必要**となる。その際は、**一般推薦・特別推薦双方について入学考査料の支払が必要**となります。

IV 検査内容

ア 特別推薦の志願者全員に個人面接又は集団面接及び実技検査を実施し、その他の検査の内容については当該都立高校長が定める。

イ **特別推薦と同時に一般推薦を志願する者については、一般推薦において実施する個人面接及び小論文又は作文等の検査についても課すものとする。**（特別推薦と同時に一般推薦を志願する者は、一般推薦において実施する個人面接、小論文又は作文等の検査も行います。）

V 選考方法

ア 選考は、各都立高校があらかじめ定めた選考方法に基づき、総合成績により行います。

イ 選考に当たっては、各都立高校が自校の教育活動の実績や特色などに基づいて適切な基準を定める。個人面接又は集団面接及び実技検査のほか、小論文又は作文等の検査を適宜組み合わせ、選考資料として用います。なお、個人面接や集団面接に当たっては、自己PRカードを面接資料として活用します。

ウ 調査書における各教科の観点別学習状況の評価又は評定の扱いは、一般推薦の扱いと同様に各都立高校が適切に定めます。

エ 受検者のうち、各都立高校が定めた基準に達していると認められた者の中から入学許可予定者（以下「合格者」という）の候補者（以下「合格候補者」という）を決定します。

※今年度は、前年度より1校増の89校での実施となります。

（蒲田、足立東、科学技術、大田桜台は、令和6年度選抜における特別推薦を実施しません。）

注意1：推薦入試で不合格であっても、第一次募集に再度出願することができます。

注意2：推薦入試で合格した場合、必ずその高校に入学しなければいけません。

(3) 特別推薦（理数）

I 応募資格

次のア～ウまでのすべてを満たし、志願する都立高校を第一志望とする者。

ア 令和6年3月に中学校を卒業する見込みの者。

イ 特別推薦に志願する意思があり、中学校の校長の推薦を受けたもの。

ウ 令和5年12月31日現在、都内に保護者と同居している者で、入学後も都内から通学する者。

II 出願方法

ア 特別推薦（理数）を実施する1校1科に限り出願します。志願変更はできません。

イ 他の推薦に基づく選抜に出願することはできません。

※特別推薦（理数）の希望者は一般推薦の受験ができません。一般推薦を希望する場合も同様に特別推薦（理数）の受験はできません。

III 出願書類

ア **理数等特別推薦書**（学校所定の様式）⇒ 各自で東京都教育委員会ホームページからダウンロード。担任に提出。中学校で作成。

イ **入学願書**（学校所定の様式）⇒ インターネット出願では、出願サイトへ志願者情報を入力する。

ウ **調査書** ⇒ 中学校で作成します。

エ **自己PRカード** ⇒ 中学校より配布します。受検者が作成します。電子ファイルで作成した場合、各自で印刷したものを中学校に提出します。

オ **科学分野等の研究に関するレポート**（A4判2枚以内、様式任意）⇒ 各自で作成

カ **入学考査料 全日制2,200円** ⇒ 出願サイト上での決済又は所定の納付書による納付とする。納付書による場合は、納付書裏面に記載の納付場所[※]で納付した領収証書の画像を出願サイトにアップロードする。納付書は学校で配布します。

IV 検査内容

科学分野等の研究に関するレポートについての口頭試問、個人面接及び小論文の検査を実施します。

V 選考方法

- ア 選考は、各都立高校があらかじめ定めた選考方法に基づき、総合成績により行います。
- イ 選考に当たっては、各都立高校が自校の教育活動の実績や特色などに基づいて適切な基準を定める。個人面接、科学 分野等の研究に関するレポートについての口頭試問及び小論文の検査を組み合わせ、選考資料として用います。なお、個人面接に当たっては、自己PRカードを面接資料として活用します。
- ウ 調査書における各教科の観点別学習状況の評価又は評定の扱いは、一般推薦の扱いと同様に各都立高校が適切に定めます。
- エ 受検者のうち、各都立高校で定めた基準に達していると認められた者の中から合格候補者を決定します。

注意 1 : 推薦入試で不合格であっても、第一次募集に再度出願することができます。

注意 2 : 推薦入試で合格した場合、必ずその高校に入学しなければいけません。

6 学力検査に基づく選抜

(1) 第一次募集・分割前期募集（全日制及び定時制）

事 項		日 時	
出 願		インターネット出願を行い、かつその他出願に要する書類については、下記書類提出期間必着で、各都立高校に簡易書留郵便等により郵送したものを受け付ける。 〔入力期間〕令和5年12月20日（水）から令和6年2月6日（火）午後5時まで 〔書類提出期間〕令和6年1月31日（水）から2月6日（火）まで（必着）	
志願変更 (注1)	入学願書取下げ	令和6年2月13日（火）	午前9時 ～ 午後3時
	入学願書再提出	令和6年2月14日（水）	午前9時 ～ 正午
学力検査及び面談		令和6年2月21日（水）	集合 午前8時30分 (定時制成人受検者特別措置者も同じ。)
面接及び実技検査等		令和6年2月21日（水）以後、各都立高校が定める日時	
合格者の発表		令和6年3月1日（金）	(全日制) 午前8時30分（合否照会サイト上で発表） 午前9時30分（校内掲示） (定時制) 午前8時30分（合否照会サイト上で発表） 午後4時（校内掲示）
合格者の入学手続		令和6年3月1日（金）	(全日制) 午前9時30分～午後3時30分 (定時制) 午後4時～午後8時
		3月4日（月）	(全日制) 午前9時～正午 (定時制) 午後4時～午後8時

集合時刻及び時間割（全日制及び定時制）

ただし、国際高校及びエンカレッジスクールとして指定された都立高校の時間割は、各都立高校が定める。

	開始時刻 ～ 終了時刻	時 間	検査教科
集 合	午前 8時30分		
第1時限	午前 9時00分～午前 9時50分	50分	国 語
第2時限	午前10時10分～午前11時00分	50分	数 学
第3時限	午前11時20分～午後 0時10分	50分	英 語
第4時限	午後 1時10分～午後 2時00分	50分	社 会
第5時限	午後 2時20分～午後 3時10分	50分	理 科

(注) 英語学力検査時間の最初の約10分間に、リスニングテストを実施する。

I 応募資格

《全日制》

- ア 令和6年3月に中学校を卒業見込みの者又は、中学校を既に卒業した者
- イ 保護者と同居している者で都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが確実な者

《定時制》

- ア 都内に住所又は勤務先を有し、入学後も引き続き都内に住所又は、勤務先を有することが確実な者
- イ 入学日までに都内に住所又は勤務先を有することが確実で、入学後も引き続き都内に住所又は勤務先を有することが確実な者

II 出願方法

志願者は、1校1コース又は1科（1分野）に限り出願します。志望する同一の都立高校内にある同一の学科内に2科（2分野）以上ある場合（芸術に関する学科を除く）は、他の全ての科（分野）に志望の順位を付けて出願することができます。同一の都立高校内に普通科とコース、農業科と家庭科等、複数の学科がある場合は、それぞれ別の学科として扱うため、一方を第1志望とした場合、他方を第2志望に指定することはできません。ただし、立川高校の理数科を第1志望とする者は同校の普通科を、科学技術高校の理数科を第1志望とする者は同校の科学技術科を、それぞれ第2志望に指定することができます。

例1) 田無工科高校は工業科内に機械科、建築科、都市工学科の複数の科があるので、希望順位をつけることができます。

例2) 小平高校のように、普通科と外国語コースの2つの学科がある学校の場合、同一の学科ではないので、一方を第一志望、他方を第二志望とすることはできません。

※ 不用意に希望順位をつけて順位の低い科に合格した場合、本意でなくとも、進学しなければいけません。この場合、以後の都立受検資格を失うことになるので、順位をつけない科（=志望しない科）があっても構いません。

III 出願書類

ア 入学願書 ⇒ インターネット出願では、志願者情報等を出願サイトに入力します。

イ 入学考査料 全日制2,200円、定時制950円 ⇒ 出願サイト上での決済又は納付書による納付とします。納付書による場合は、所定の納付書により、納付書裏面に記載の納付場所で納付した領収証書の画像を出願サイトにアップロードします。やむを得ず所定の入学願書を用いる場合は、領収証書を裏面に貼り付けて提出します。

ウ 調査書 ⇒ 中学校で作成します。

エ 自己PRカード ⇒ 全日制、定時制ともに面接を実施する都立高校（以下「面接実施校」という。）の志願者のみ提出。用紙は中学校より配布します。受検者が作成します。電子ファイルで作成した場合、各自で印刷したものを中学校に提出します。

オ 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）スコアレポート ⇒ 1月下旬に中学校に届く予定です。スピーキングテストを受験した者のみ、都立高校提出用の原本を提出します。また、面接を実施しない学校は、合格発表後、提出します。

※推薦入試同様、出願の締め切りを早めに設定します。本校では、2月1日とします。

IV 学力検査

① 全日制は、国語、数学、外国語（英語）、社会及び理科の5教科とします。ただし、芸術及び体育に関する学科については、国語、数学及び外国語（英語）の3教科とします。

なお、エンカレッジスクールとして指定された都立高校においては、学力検査を実施しません。

② 定時制は、国語、数学、外国語（英語）、社会及び理科の5教科のうち、3教科を下らない範囲で各都立高校が定めます。また、面接を実施します。

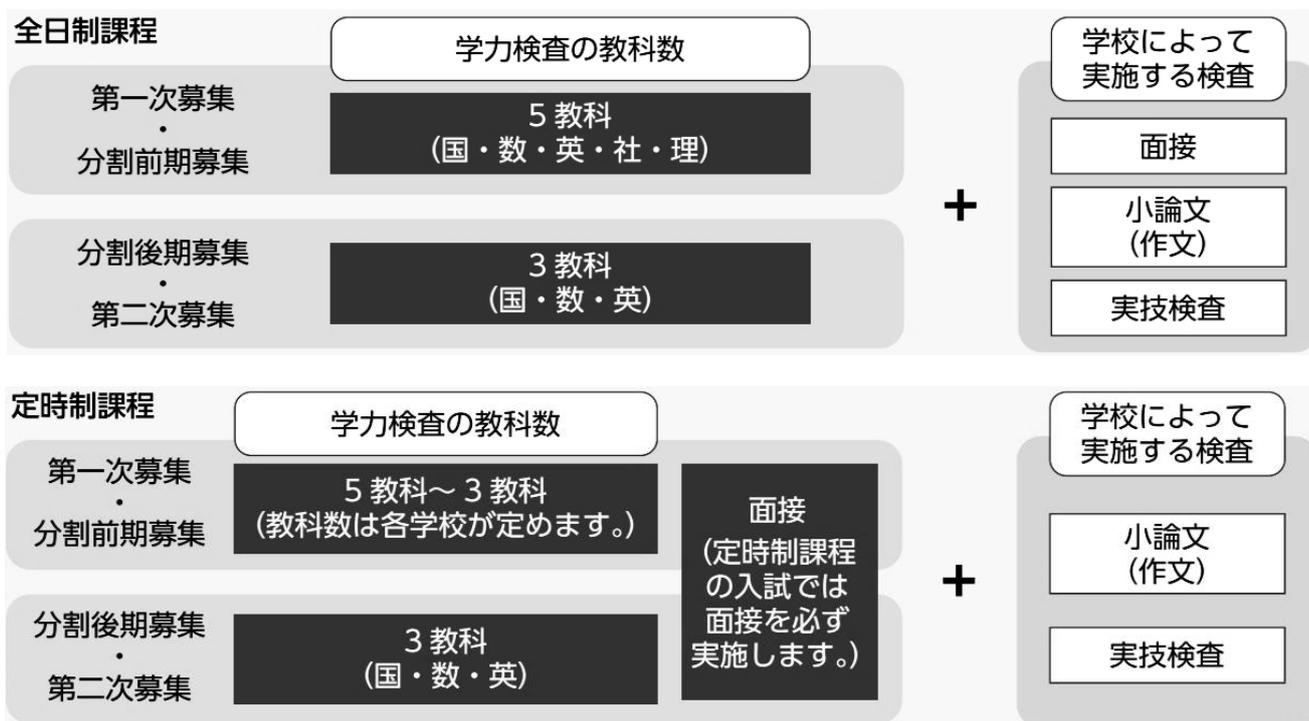
※ その他の検査の実施内容は、各都立高校が定めます。

※ 各教科の満点は100点とします。特定の教科の配点に比重をかける（以下「傾斜配点」という。）都立高校もあります。

※ 検査教科等のうち、1教科（面接及び実技検査等を含む）でも受検しなかった者は、受検を放棄したものとみなします。

※ 面接及び実技検査等を行う科(分野)を第2志望以下の志望順位とした者については、当該の科(分野)において実施する面接及び実技検査等の検査を課すものとします。

※ ほとんどの都立高校で学力検査は東京都が作成した共通の問題を使用します。



※令和6年度第一次募集・分割前期募集における学力検査問題を自校で作成する高校

東京都共通の5教科試験ではなく、「国語、数学、英語」の1～3教科で、独自の試験問題を作成する高校があります。進学指導に特に重点がおかれている高校で多く実施しています。今年度も、下記の高校で実施します。

1 全日制

高校名	実施教科
日比谷 戸山 青山 西 八王子東 立川 国立 新宿 墨田川 国分寺	自校で作成した学力検査問題3教科(国語、数学、英語)及び都立高校共通問題2教科(社会、理科)で行う。
国際	自校で作成した学力検査問題1教科(英語)及び都立高校共通問題4教科(国語、数学、社会、理科)で行う。

2 定時制

高校名	実施教科
農産	自校で作成した学力検査問題3教科(国語、数学、英語)を、各25分で行う。
八王子拓真(一般枠)	自校で作成した学力検査問題3教科(国語、数学、英語)を、総合して50分で行う。

V 選考

- (1) 選考は、調査書、学力検査（面接、小論文又は作文及び実技検査を実施する都立高校にあってはそれらを含む。）及び点数化したスピーキングテスト結果を総合した成績（総合成績）、入学願書による志望及び都立高校長が必要とする資料により行います。ただし、点数化したスピーキングテスト結果は、原則、英語の学力検査を実施する都立高校においてのみ、選考に用います。なお、面接実施校においては、自己PRカードを面接資料として活用します。ただし、自己PRカードは点数化しません。また、面談を実施する都立高校にあっては、面談は点数化しませんが、選考に当たっては、面談の結果にも十分配慮します。

※ 面接、小論文又は作文、実技検査は一部の高校やコースで行います。

※ 第2志望以下を志望した者については、その科（分野）において実施する面接及び実技検査等の検査も受けることになります。

- (2) 学力検査の得点（学力検査を実施した教科の得点の合計。ただし、傾斜配点を行う教科については、傾斜配点を行った得点とする）と調査書の各教科の学習の記録を点数化したもの（以下「調査書点」という）の比率については、次のとおりとします。

ア 全日制は、7：3とします。ただし、芸術及び体育に関する学科は6：4とします。

イ 定時制は、7：3又は6：4のどちらかとします。

なお、学力検査の得点と調査書点の合計は、1000点を満点とします。さらに、点数化したスピーキングテスト結果を加えた合計を「総合得点」といい、1020点を満点とします。

- (3) 都立高校では、スピーキングテストのAからFまでの6段階で提出された評価を、次の表のとおり、20点満点に点数化する。

スピーキングテスト結果(評価)	A	B	C	D	E	F
都立高等学校入試での活用(点数化)	20点	16点	12点	8点	4点	0点

- (4) 面接、小論文又は作文及び実技検査の結果については、各都立高校が適切に基準を定めて、それぞれ点数化する。

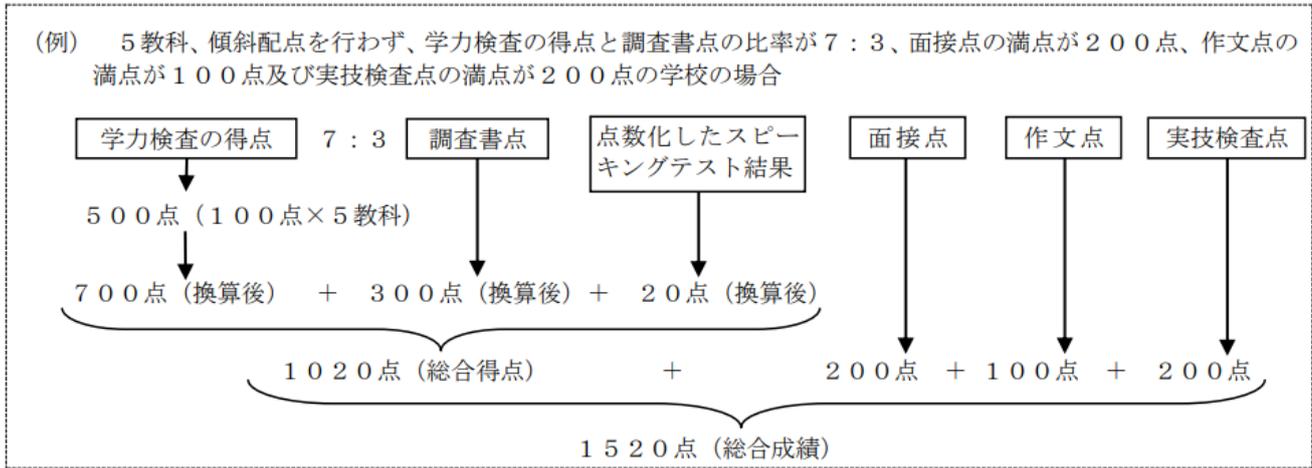
- (5) エンカレッジスクールとして指定された都立高校

① 調査書、面接、小論文又は作文（実技検査を実施する都立高校にあってはこれらに加え、実技検査）の結果を総合した成績（総合成績）、入学願書による志望及び都立高校長が必要とする資料により行います。

なお、各教科の観点別学習状況の評価を用いて調査書点を算出し、面接に当たっては、自己PRカードを面接資料として活用します。

② 調査書、面接、小論文又は作文（実技検査を実施する都立高校にあってはこれらに加え、実技検査）の結果は点数化します。それぞれの満点については、各都立高校が適切に定めます。

※ エンカレッジスクールでは学力検査は実施されません。



※ 大半の高校は学力検査のみなので「総合得点」＝「総合成績」となります

総合得点の換算方法

《調査書点 (内申点)》

すべての高校で、学力検査を受ける教科はそのまま足し算し、残りの教科を2倍にして換算内申点を出します。5教科受検の場合は、合計65点満点、3教科受検の場合は、合計75点満点で算出します。

《総合得点》

すべての高校で、第一次募集での学力検査と調査書点の比率は**7:3**となります。この比率をもとに総合得点を算出します。ただし、体育科 (駒場高校、野津田高校) 芸術科 (総合芸術高校) に関しては、3教科と実技検査を行い、学力検査と調査書の比率は6:4となります。

※ 全日制の分割後期募集・第二次募集に関しては、3教科「国、数、英」受検で、学力検査と調査書の比率は6:4となります。

※ 定時制の分割後期募集 (昼夜間定時制普通科5校のみ) については3教科受検 (八王子拓真は自校作成) で、比率は6:4となります。第二次募集は3教科受検で、比率は6:4となります。

※ 通信制課程は、学力検査の教科も比率も各学校が定めます。

課程・募集の別		学力検査の教科	学力検査と調査書の比率
全日制課程	第一次募集・分割前期募集	5教科(国・数・英・社・理)	7:3
	分割後期募集・第二次募集	3教科(国・数・英)	6:4
定時制課程 昼夜間定時制課程	第一次募集・分割前期募集	5教科(国・数・英・社・理)の中から3教科以上	7:3又は6:4
	分割後期募集・第二次募集	5教科(国・数・英・社・理)の中から3教科以上	6:4又は5:5



自分の総合得点を1学期の成績と前回の到達度テストの得点をもとに出してみましょう

(5教科入試7:3の場合)

① 調査書点

5教科(国数英社理)の合計 + 4教科(音美体技家)の合計 × 2 = 換算内申点

$$\boxed{} + \boxed{} \times 2 = \boxed{}$$

換算内申点 ÷ 65 × 300 = 調査書点

$$\boxed{} \div 65 \times 300 = \boxed{}$$

※小数点以下切り捨て

② 学力検査点

到達度テスト5教科の合計点 ÷ 500 × 700 = 学力検査点

$$\boxed{} \div 500 \times 700 = \boxed{}$$

③ 総合得点

①の調査書点 + ②の学力検査点 = あなたの総合得点

$$\boxed{} + \boxed{} = \boxed{}$$

※ 実際の調査書点にはスピーキングテストの点数も加算されます。

合格候補者の決定

- i. 募集人員に相当する人数を総合成績の順により決定します。
- ii. 専門学科や昼夜間定時制では、「学校全体の定員で合格者を決めてから、第1志望を優先して各科の合格者を決める場合(複数の専門学科をもつ高校と昼夜間定時制高校の一部)」と「各部ごとに合格者を決める場合(昼夜間定時制高校の一部)」があります。他の科に順位をつけて出願している場合、第2志望以降の科に合格する場合があります。
- iii. 学力検査を行わない学校では、それぞれ以下の点数で合否を判断します。

- エンカレッジスクール…学力検査を行わず、調査書、面接、小論文又は作文及び実技検査の各得点を総合した成績で選考を行います。

蒲田、足立東、東村山、秋留台、中野工科、練馬工科

- チャレンジスクール…調査書を用いず、また、学力検査を行わず、志願申告書、個人面接及び作文により選考を行います。調査書及び自己PRカードの提出は不要です。学校所定の志願申告書は各高校で配布します。

六本木、大江戸、世田谷泉、稔ヶ丘、桐ヶ丘、小台橋、八王子拓真(チャレンジ枠)

VI 志願変更について

出願後、1回に限り志願変更をすることができます。なお、同一の都立高校内に普通科とコース、農業科と家庭科等、複数の学科がある場合は、それぞれ別の学科として扱うため、一方に出願後、他方へ志願変更をすることができます。ただし、入学願書の返却を受けた都立高校の同一のコース及び科（分野）に再提出することはできません。志望順位の変更もできません。また、全日制から定時制への変更もできません。

<取り下げの日程と流れ>

入学願書取り下げ：令和6年2月13日 9：00～15：00

入学願書再提出：令和6年2月14日 9：00～12：00

- ①出願した高校に志願変更願を持参し、書類を受け取る
- ②指定された期間内に出願サイトに必要事項を入力する。
- ③返却された出願に要する書類に必要な事項を記入する。
- ④志願者は、再提出先の都立高校の出願サイトへの出願情報の登録とともに、出願書類を窓口へ提出する。
- ⑤出願サイトで受検票の交付を受ける。

※第一次募集・分割前期募集及び分割後期募集・第二次募集において、チャレンジスクール、八王子拓真高校（チャレンジ枠）、分割募集を行う定時制単位制高校から全日制高校への志願変更について、1回に限り行うことができます。

※チャレンジスクール又は八王子拓真高校（チャレンジ枠）に出願後、全日制へ志願変更をする者は、新たに調査書及び自己PRカード（面接実施校の志願者のみ）を提出します。

※チャレンジスクール、八王子拓真高校（チャレンジ枠）、一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校（一般枠）及び砂川高校に出願後、全日制へ志願変更をする者は、入学考査料の差額（1,250円）を再提出先の都立高校の窓口において、現金で納付します。

<志願変更ができる例>

- | |
|--|
| <p>(例1) 八潮高校の普通科に出願後、異なる学科である芝商業高校のビジネス科へ志願変更をすることができる（その逆も可能）。</p> <p>(例2) 富士森高校の普通科に出願後、コースを置く片倉高校の造形美術コースへ志願変更をすることができる（その逆も可能）。</p> <p>(例3) 国際高校の国際学科に出願後、コースを置く小平高校の外国語コースへ志願変更をすることができる（その逆も可能）。</p> <p>(例4) コースを置く小平高校の外国語コースに出願後、同じ小平高校の普通科へ志願変更をすることができる（その逆も可能）。</p> <p>(例5) 農業高校の農業に関する学科の食品科学科に出願後、同じ農業高校の家庭に関する学科の食物科へ志願変更をすることができる（その逆も可能）</p> |
|--|

<志願変更ができない例>

- | |
|--|
| <p>(例1) 園芸高校の農業に関する学科の動物科を第1志望として出願後取り下げ、同じ園芸高校の農業に関する学科の食品科を第1志望として再提出することはできない（同一校同一学科への再提出はできない。志望順位の変更もできない。）。</p> <p>(例2) 六郷工科高校の工業に関する学科のプロダクト工学科を第1志望として出願後取り下げ、同じ六郷工科高校の工業に関する学科のデュアルシステム科を第1志望として再提出することはできない（同一校同一学科への再提出はできない。志望順位の変更もできない。）。</p> <p>(例3) エンカレッジスクールの蒲田高校に出願後取り下げ、チャレンジスクールの六本木高校に再提出することはできない（全日制からチャレンジスクールへの志願変更はできない。その逆は可能）。</p> |
|--|

都立高等学校入学願書再提出先一覧
第一次募集・分割前期募集

再提出 取下げ		全 日 制	定 時 制		
			定 時 制 単 位 制		定 時 制 単 位 制 以 外
			チャレンジスクール (注1)、 八王子拓真高校 (チャレンジ枠) 及びグループA (注2)	グ ル ー プ B (注 3)	
全 日 制		○	×	×	×
定 時 制	定 時 制 単 位 制	チャレンジスクール (注1)、 八王子拓真高校 (チャレンジ枠) 及びグループA (注2)	○	×	×
		グ ル ー プ B (注 3)	×	×	×
		定 時 制 単 位 制 以 外	×	×	×

分割後期募集・全日制第二次募集・チャレンジスクール及び八王子拓真高校（チャレンジ枠）第二次募集

再提出 取下げ		全 日 制	定 時 制 単 位 制
			チャレンジスクール (注1)、 八王子拓真高校 (チャレンジ枠) 及びグループA (注2)
全 日 制		○	×
単 位 時 制	チャレンジスクール (注1)、 八王子拓真高校 (チャレンジ枠) 及びグループA (注2)	○	○

定時制第二次募集

再提出 取下げ		定 時 制		
		定 時 制 単 位 制	定 時 制 単 位 制 以 外	
		グ ル ー プ B (注 3)		
定 時 制	単 位 時 制	グ ル ー プ B (注 3)	○	○
		定 時 制 単 位 制 以 外	○	○

(注1) チャレンジスクールとは、六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校、桐ヶ丘高校及び小台橋高校をいう。

(注2) グループAとは、一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校(一般枠)及び砂川高校をいう。

(注3) グループBとは、新宿山吹高校、六郷工科高校、飛鳥高校、板橋有徳高校、青梅総合高校及び東久留米総合高校をいう。

(注4) 大島海洋国際高校を除く島しょの都立高校への再提出はできない(ただし、大島高校と大島海洋国際高校間の志願変更はできる。)

(注5) 島しょの都立高校への再提出はできない。

Ⅶ 入学手続き（一般入試第一次／分割前期）

<日時> 令和6年3月1日（金） 全日制:午前9時30分～午後3時30分 定時制:午後4時～午後8時
 3月4日（月） 全日制:午前9時 ～正午 定時制:午後4時～午後8時

※合格者は、この期間内に「入学確約書」を提出し、所定の「納付書」により、納付期間内（合格発表日の翌日から起算して5日以内。ただし、5日目が土・日・祝日に当たる場合は金融機関等の翌営業日）に入学料（全日制 5,650円、定時制 2,100円）を納付書裏面に記載の納付場所で納付しなければなりません。

※入学手続き期間内に入学確約書を提出しない者は、合格を放棄したものとみなします。

※入学料の納付がない場合、入学確約書は無効とします。

※都立高校が必要とするその他の書類は、入学確約書を提出したときに各都立高校が交付します。都立高校が必要とするその他の書類は、当該都立高校長が定める期間内に提出します。

※私立高校に併願優遇で合格している場合は、その私立高校に「辞退届」などの手続きが必要な場合があります。私立高校の募集要項等で確認をお願いします。

（2）分割後期募集・第二次募集（全日制および定時制）

第二次募集…第一次募集の結果、入学手続き人員が募集人員に達しない学校が実施する募集です。第二次募集でも定員に達しない場合は、第三次募集を行います。全日制の場合、第二次募集を実施する学校は多くなく、募集人員も少ない場合が多いです。

分割後期募集・全日制第二次募集日程と集合時間及び時間割

事 項		日 時	
出 願		令和6年3月 6日（水）	午前9時～午後3時
志願 変更	入学願書取下げ	令和6年3月 7日（木）	午前9時～午後3時
	入学願書再提出	令和6年3月 8日（金）	午前9時～正午
学力検査及び面談		令和6年3月 9日（土）	集合 午前8時30分
面接及び実技検査等		令和6年3月 9日（土）以後、各都立高校が定める日時	
合格者の発表		令和6年3月14日（木）	午前8時30分（合否照会サイト上で発表） 正午（校内掲示）
合格者の入学手続		令和6年3月14日（木） 3月15日（金）	正午～午後3時 午前9時～正午
選抜用評定等確認表の送付期限		令和6年3月15日（金）から3月21日（木）までに、別表12の中学校長へ各都立高校長が発送する。	

	開始時刻 ～ 終了時刻	時 間	検 査 教 科
集 合	午前 8時30分		
第 1 時 限	午前 9時00分～午前 9時50分	50分	国 語
第 2 時 限	午前10時10分～午前11時00分	50分	数 学
第 3 時 限	午前11時20分～午後 0時10分	50分	英 語

定時制第二次募集日程

事 項		日	時
出 願		令和6年3月21日(木)	午後3時～午後7時
志願 変更	入学願書取下げ	令和6年3月22日(金)	午後3時～午後7時
	入学願書再提出	令和6年3月25日(月)	午後3時～午後7時
学 力 検 査 等		令和6年3月26日(火)	集合 各都立高校が定める時刻
合 格 者 の 発 表		令和6年3月27日(水)	午前8時30分(合否照会サイト上で発表) 午後3時(校内掲示)
合格者の入学手続		令和6年3月27日(水) 3月28日(木)	午後3時～午後7時 午後3時～午後7時

※定時制の集合時刻及び時間割は、各都立高校が定めます。

I 応募資格

すでに都立高校、都立産業技術高等専門学校に合格した者は出願できません。定時制の第二次募集では、上記に加え、分割後期募集・全日制第二次募集の選抜における合格者も出願できません。一人でも多くの生徒の都立高校への進学を保障する趣旨から、既に国私立高校に入学手続きを終えている生徒も出願を遠慮してください。

II 出願（分割後期／一般入試第二次）

志願者は、1校に限り出願します。なお、志望校に複数の学科、コース、科（分野）があり、募集がある場合は、第一次募集・分割前期募集と異なり、志望の順位を付けることができます（芸術に関する学科を除く）。

<全日制的出願例>

(例1)

	松が谷高校
第1志望	外国語コース
第2志望	普通科
第3志望	—

(例2)

	農業高校
第1志望	服飾科(家庭)
第2志望	都市園芸科(農業)
第3志望	食物科(家庭)

III 出願書類

第一次募集・分割前期募集に準じます。インターネット出願は行わないため、出願に要する書類等の提出は全て紙で行い、入学審査料は所定の納付書により納付書裏面に記載の納付場所で納付し、入学願書の裏面に貼り付けます。ただし、全日制的入学願書は、分割後期募集・全日制第二次募集用を用い、定時制の入学願書は、定時制第二次募集用を用います。

IV 出願方法

出願期間中に志願する都立高校の窓口で必要な書類を全て紙で提出します。

V 志願の変更（分割後期／一般入試第二次）

(1) 分割後期募集・全日制第二次募集における志願変更

志願者は、入学願書提出後、1回に限り行うことができます。方法・条件等は第一次募集・分割前期募集に準じます。

(2) 定時制第二次募集における志願変更

定時制第二次募集を実施している都立高校からの変更について、1回に限り行うことができます。ただし、入学願書の返却を受けた都立高校及び島しょの都立高校への再提出はできません。方法・条件等は第一次募集・分割前期募集と同じです。

VI 学力検査

分割後期募集・全日制第二次募集は、国語・数学・外国語（英語）の3教科とします。

なお、エンカレッジスクールとして指定された都立高校においては、学力検査を実施しません。

定時制第二次募集は、国語、数学、外国語（英語）、社会及び理科の5教科のうち、3教科を下らない範囲で各都立高校が定めます。また、面接を実施します。

その他の検査の実施内容は、各都立高校が定めます。

VII 選考方法

第一次募集・分割前期募集に準じます。ただし、学力検査の得点と調査書点の比率は、全日制は6：4とし、定時制は6：4又は5：5のどちらかとします。

エンカレッジスクールとして指定された都立高校の選考は、第一次募集・分割前期募集に準じます。

スピーキングテストの結果は選考に活用しません。

VIII 合格発表

合格者の発表は、入学願書提出校における校内の掲示及び合否照会サイト上で行います。

IX 入学手続き

合格者は、入学手続き期間内に入学確約書を提出し、所定の納付書により、納付期間内（合格発表日の翌日から起算して5日以内。ただし、5日目が土・日・祝日に当たる場合は金融機関等の翌営業日）に入学料（全日制 5, 650円、定時制 2, 100円）を納付書裏面に記載の納付場所で納付しなければなりません。入学手続き期間内に入学確約書を提出しない者は、合格を放棄したものとみなします。また、入学料の納付がない場合、入学確約書は無効とします。都立高校が必要とするその他の書類は、入学確約書を提出したときに各都立高校が交付します。都立高校が必要とするその他の書類は、当該都立高校長が定める期間内に提出します。

7 特別措置

- 1 障害のある受検者に対する措置（令和5年12月15日（金）までに申請）
 - 2 事故や病気等による学力検査等実施上の措置（令和5年12月15日（金）までに申請）
 - 3 インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する措置（令和6年2月22日（木）午後5時まで申請）
- などがあります。該当する場合は、早めに担任まで申し出てください。

8 インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する追検査

第一次募集において、インフルエンザ等に罹患した者、学校保健安全法第19条により中学校長が出席停止の措置を行うなど、第一次募集で出願した都立高校を受検することができなかった者に対して、追検査を実施します。なお、追検査は、第一次募集を実施する都立高校（全日制課程及び定時制課程（島しょの都立高校を含む））において実施します。分割募集を実施する都立高校においては、追検査を実施しません。

追検査の日程

事 項	日	時
出 願	令和6年3月 6日 (水)	午前9時 ~ 午後3時
学 力 検 査	令和6年3月 9日 (土)	集合 午前8時30分
面接及び実技検査等	各都立高校が定める時間	
合格者の発表	令和6年3月14日 (木)	午前8時30分 (合否照会サイト上で発表) 正午 (校内掲示)
合格者の入学手続	令和6年3月14日 (木) 3月15日 (金)	正午 ~ 午後3時 午前9時 ~ 正午

9 その他

- ① デュアルシステム科、チャレンジスクール、定時制課程単位制、通信制課程、海外帰国生徒、在京外国人生対象 (国際高校)、国際高校国際バカロレアコース、高等専門学校の入学者選抜実施要項については別に定められているので、注意してください。近年は、選抜の方法が高校によって異なります。高校が実施する説明会に参加したり、都教育委員会から配布される資料等を見たりして、受検しようと考えている高校についてよく調べる必要があります。
- ② 学力検査はすべての学校で、一部、マークシート方式による解答となっています。記号による解答部分のみマークシート方式で、国語や英語の作文、社会や理科での説明や作図などの出題は、今まで通り記述方式です。
- ③ 推薦入試は倍率も高く、学力検査による入試よりも競争が厳しいのが普通です。調査書の合計 (素点) が目安になりますが、完全に可能性を予測することは困難です。また、難しいとわかっているにもかかわらず、不合格になると精神的に大きなショックを受ける場合もありますので、よく考えて受検してください。
- ④ 学力検査に基づく検査の選抜は、倍率等により合格最低点が変動しますので、完全に合否を予想することはできません。また、当日体調が悪かったり、実力を出し切れなかったりすることもあります。どうしても都立高校に進学したい人は、余裕をもった高校選びをすることも大切になります。
- ⑤ 願書、調査書、中学校が発行する成績一覧表、入試答案に記入する生徒氏名が、すべて一致していなければいけません。生徒氏名は通常、住民票に記載されているものを使用しますが、常用漢字の平易な形を使用してもよいことになっています。どの漢字を使って氏名を書くかをあらかじめ決めておき、今後のすべての書類で統一して使用してください。卒業証書・卒業アルバムなどについても、「使用する字」についての届を提出していただきますので、よろしくご準備ください。

10 東京都立産業技術高等専門学校入学者選抜実施概要について

東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」といいます。）は、卒業までの5年間で、工業に関する専門的な知識の修得とともに、実践や体験を重視したものづくり教育を行う学校です。東京都公立大学法人のもとで、東京都立大学及び東京都立産業技術大学院大学との一体的な管理・運営が行われています。

低学年で、基礎学力を身に付けるため一般科目を多く学び、高学年になると、より高度な専門知識を修得するために機械、電気、情報などの専門科目を多く学びます。更に産技高専の教育の特長として、実験や実習などの体験的学習の時間が豊富に用意されており、実践的な能力を身に付けることができます。

また、産技高専では東京都の課題解決に貢献する中核的技術者の育成を目指し、平成28年4月には情報セキュリティ及び航空の2つの技術者育成プログラムを開設、令和3年4月には医工連携教育・研究プロジェクトを立ち上げるとともに、情報セキュリティ関連科目を新設の情報システム工学コース内の正規科目としています。

卒業年度（5年生）には、1年間をかけて「卒業研究」を行い、卒業する時に「準学士」と称することができます。

卒業後の進路としては、就職のほか、大学3、4年次に相当する2年間の専攻科へ進学し、学士の学位を取得することや、国公立の大学3年次への編入学も可能です。

【ものづくり工学科（8コース）】

高専品川キャンパス：機械システム工学コース・AIスマート工学コース・電気電子工学コース・情報システム工学コース
高専荒川キャンパス：情報通信工学コース・ロボット工学コース・航空宇宙工学コース・医療福祉工学コース

1 選抜実施について

1 選抜種別

『推薦に基づく選抜』及び『学力検査に基づく選抜』を実施

2 検査内容（選抜実施方法は裏面のとおりに）

（1）推薦に基づく選抜

中学校長が作成する調査書、面接及び小論文

（2）学力検査に基づく選抜

学力検査（国語・数学・英語）及び中学校長が作成する調査書

※中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）は使用しません。

3 選抜日程

	推薦に基づく選抜	学力検査に基づく選抜
入学願書受付日	令和6年1月12日（金） から1月18日（木）まで	令和6年1月31日（水） から2月6日（火）まで
検査実施日	令和6年1月26日（金）	令和6年2月15日（木）
合格発表日	令和6年2月2日（金）	令和6年2月20日（火）

※ 入学願書は上記出願受付期間に、高専品川キャンパスに簡易書留郵便にて必着により受付。

東京都立産業技術高等専門学校 入学者選抜実施方法

〔求める生徒像（アドミッション・ポリシーの抜粋）〕

本校の教育理念に基づいた人材を育成するために、以下の能力と意欲を有する生徒を求めています。

- (1) 向上心を持ち、自分の決めた目標に向けて粘り強く努力できる人
- (2) 高専での教育を受けるのにふさわしい基礎知識・能力を有している人
- (3) コミュニケーション能力を身に付け、世界を舞台に活躍したい人
- (4) ものづくりが好きで、実践的技術者になりたいと考えている人

〔検査内容等〕

項目	推薦に基づく選抜	学力検査に基づく選抜（第一次募集）
要件	都内在住かつ都内の中学校を卒業見込みの者 一般推薦：中学校長の推薦を受けた者 特別推薦：連携校及び指定校の校長の推薦を受けた者	都内在住者のほか一定の募集人員を設け、都外在住者も受入れ
検査内容	中学校長が作成する調査書	中学校長が作成する調査書
	小論文 検査時間 60分	学力検査 国語・数学・英語 各50分 ※英語学力検査時間の最初の約10分間にリスニングテストを実施
	面接	
配点	（別表1）のとおり	（別表2）のとおり
検査会場	高専品川キャンパス及び 高専荒川キャンパス	高専品川キャンパス及び 高専荒川キャンパス

（別表1）推薦に基づく選抜の配点

満点		
調査書	面接	小論文
500	300	200

（別表2）学力検査に基づく選抜の配点

学力検査		調査書		学力検査：調査書	満点	
教科	学校指定による 傾斜配点	教科の評定の扱い			学力検査	調査書
		学力検査を実施する 教科	学力検査を実施しない 教科			
国語 数学 英語	数学 1.5倍	1倍	理科 1.4倍 その他 1.2倍	7 : 3	700	300

2 入学審査料・入学料・授業料

(令和5年4月1日現在)

入学審査料	入 学 料	授 業 料		
		年額	納入回数	1回の納入額
12,600円	42,300円(東京都の住民) 84,600円(東京都の住民以外)	234,600円	4回	年額の1/4

※東京都立産業技術高等専門学校は、東京都の住民以外の方も受検することができます。

※入学料の改定があった場合には、改定後の入学料が適用されます。

※在学中に授業料の改定があった場合には、改定後の授業料の年額が適用されます。

※第1学年から第3学年までは、授業料について所得要件に合致する世帯を対象に高等学校等就学支援金の適用があります。また、その他都内在住者を対象とした授業料関係制度もあります。

3 入試等についての問合せ先及び各キャンパス所在地

東京都立産業技術高等専門学校ウェブサイト <https://www.metro-cit.ac.jp>

高専品川キャンパス：品川区東大井1-10-40 電話 03(3471)6331(代表)

高専荒川キャンパス：荒川区南千住8-17-1 電話 03(3801)0145(代表)

◇私立高校について

1 推薦入試

I 出願資格

第1志望であり、合格したら必ず入学することが条件です。合格後の変更はできないので、よく考えて希望してください。

注意：推薦入試で合格した場合、必ずその高校に入学しなければいけません。

II 推薦基準

多くの学校が、成績等の推薦基準を設けています。推薦の基準は各学校の要項などに明記しています。なかには公表してある内容に補足（地域優遇など）がある学校もあります。「高校側の基準」、および「一中の推薦の目安」の両方を満たしている場合に受験可能になります。高校側の主な基準は次のようになります。

ア 推薦にふさわしい人物であり、中学校長の推薦を受けていること。

イ 成績の基準は、調査書の評定で9科計、5科計、3科計など、学校により異なります。また、特定の教科が一定の成績以上であること、すべての教科に1や2がないことなどの条件がある場合があります。また、事前の説明会への参加を条件にする学校もあります。

ウ 3年間で欠席10日以内のように、欠席や遅刻の回数に条件を定めている学校もあります。

ただし、入院など、正当な理由があるときは、考慮される場合があります。

エ 英検、漢検などの資格や生徒会活動などによって、加点される場合があります。

オ スポーツや文化活動による推薦の場合は、その実績や技能が重要な条件となります。

また、入学後そのスポーツや文化活動を原則3年間続けることが条件となります。

III 入試日程

ア 入試日 ⇒ 1月20日前後が多いです。

イ 合格発表、入学手続き ⇒ 試験後、当日や翌日の発表、手続きの学校が多いです。

IV 合否の判定

ア 調査書、推薦書、面接、作文等の結果を総合的に判断して行います。一部、適性検査として、学力検査を実施する学校もあります。

イ 基準に達していれば、高い可能性で合格する学校と、基準は受験資格であって応募人数が多ければ、不合格をだす学校があります。

ウ 推薦で不合格となった場合、その学校の一般入試を再度受験することができます。学校によっては再受験の場合に、一般の受験生よりも優遇される例もありますが、募集要項での確認が必要です。

2 一般入試

I 受験資格

男女別以外は、原則として誰でも受験できます。ただし、特別な基準や扱いもありません。

II 入試日程

ア 入試日 ⇒ 東京都の場合、2月10日～数日間です。

イ 合格発表、入学手続き ⇒ 試験の当日や1～3日後くらいに行います。

※ 公立の学校を第1志望としている場合に、公立高校の発表まで手続きを待つ学校があります。その際は、延納(公立の発表後まで手続きを待ってくれる制度)の手続きが必要になる場合があります。また、公立の発表前に費用の一部を納めなければならない学校などもありますので、募集要項をよく確認してください。

III 入試科目

ア 多くの学校が「国、数、英」の3教科ですが、5教科や2教科を選択する学校もあります。

イ 面接を実施する学校がほとんどです。個人面接が多いですが、中には保護者同伴やグループ面接を実施している学校もあります。

IV 合否の判定

ア 調査書、学力検査、面接の結果を総合的に判断して行われますが、多くの学校が学力検査の結果にウエイトを置いています。

イ 推薦入試と一般入試では、募集人員を分けて発表されていますが、一般入試でも優遇制度を実施している学校では、優遇を受けない受験生の受け入れ枠が少なく、合格が難しくなることがあります。

3 併願優遇制度について

併願優遇は、「第一志望の学校が不合格の場合に入学する」ということが原則で優遇されるものです。第1志望の学校は都立だけの場合(公立併願優遇)と、私立も可の場合(公私立併願併願優遇)がありますので、募集要項でよく確認してください。ほかに、第一志望優遇という制度もあります。合格したら必ず入学することを条件に優遇するものです。

この2つの制度は、成績や人物を中学校長が保証するもので、取り扱いは推薦入試に準ずるものです。

I 出願基準

ア、推薦入試と同様に成績(内申点)等の基準があります。

イ、一般的に、推薦より併願優遇(第二志望優遇)の方が、基準が高くなります。

II 入試日程、入試科目など

入試は一般受験と同時に行なわれることが多いですが、学校によっては受験コース別に、複数の受験日から受験日を指定する、もしくは指定されるところもあります。

III 合否の判定

ア、調査書、学力検査、面接の結果を総合的に判断して行われます。

イ、基準に達していれば、きわめて高い可能性で合格する学校と、基準は受験資格であったり、基準により一定の点数を加点する場合であったり、学力検査の点数により合否の判断が行われる学校もありますので、各校の制度の特徴をきちんと理解して利用するようにしてください。

4 入試相談

推薦や第一志望、併願優遇（第二志望優遇）を希望する生徒については、中学校が事前に高校側と相談をします。中学校側から受験希望者を提示し、高校側はその学校の基準をもとに、受験可能かどうかを提示します。都内の私立高校から「個別相談会」などで合否の見通しを提示されることがありますが、推薦や併願優遇制度を利用する場合には、中学校を通しての入試相談を行うことが必要です。

※入試相談は、12月15日から行われます。中には、入試相談を行わない学校もあります。当然のことですが、相談は何の準備もなく行えるものではありませんので、相談日より前から相談をする日時の予約を取ること、必要な書類や取り組みの証明（例 検定の級の証明、部活動の実績の証明など）のような相談に必要なものを不備なく準備することが大切になってきます。進路の検討には時間が必要という面はありますが、学年全体にかかわる動きであることも踏まえて、12月の面談での決断するタイミングは、ことさらに大切にしてください。

※埼玉県では高校側と保護者が入試相談を行うことになっています。受験の際は各自で行ってもらうこととなります。

5 自己推薦

自分の特技や部活動などの実績を自ら推薦する制度を設けている学校があります。合否は不確実で当日の学力検査や面接の結果で決まります。

6 出願書類

国立・私立の願書等は、各自で準備してください。募集要項の中に必要な書類が入っています。説明会で配布される場合が多いですが、そうでない場合は購入することになります。インターネット出願も多くなっていますので、募集要項をよく読んで、出願方法を確認してください。また、保護者の方だけでなく、生徒本人も受験に向けての流れをきちんと理解して取り組めるようにしてください。

ア、入学願書 ⇒ 証明写真が必要です。本校では12月8日6校時に撮影を行います。

イ、調査書 ⇒ 私立指定の調査書を用いる場合と、公立用の調査書を用いる場合があります。

指定の調査書の場合は、早めに担任に提出してください。

ウ、受験料 ⇒ 20,000円～ 指定の振込用紙がある、願書に振込用紙が付いている、窓口で現金で支払う、インターネットで振込むなど、学校により様々です。期限を守り、間違いのないようにしてください。

エ、推薦書 ⇒ 推薦制度を利用する場合に必要です。

オ、その他 ⇒ 受験する学校により、面接資料、検定取得を証明するもの、延納願、合格通知用封筒の宛名の書類等もあります。

7 推薦基準にかかわること

私立の推薦基準としての内申合計は素内申（通知表に記載される5段階評定）の合計です。都立の換算内申ではありません。また、内申点が基準に満たない場合でも、生徒会や委員会活動、部活動への参加や資格などで1～2ポイント不足していても推薦・優遇の扱いをしてくれる高校もあります。すべての学校ではないので、面談や学校説明会で確認してください。

また、推薦入試といっても基準は「出願の下限の基準」で、当日のテストの結果で合否を決める方法を『推薦』とよぶ学校もあります。大学付属の学校に多く見られます。しっかり理解した上で、受験してください。

◎ 推薦制度を利用するにあたって

推薦制度を利用する場合、都立・私立を問わず、生徒本人がその高校を第一希望としていることや、中学校生活にまじめに取り組み、高校でもそれが期待できることが推薦の前提条件です。推薦制度は、本校の校長から、該当の高校の校長へ推薦するものです。推薦生徒としての自覚と責任をもち、推薦の意味をよく理解した上で希望して下さい。万が一、推薦にふさわしくないと判断された場合は、学校長の判断で推薦を取り消されることもありますので、責任ある行動をとるよう心がけて下さい。また、高校進学後も推薦生徒としての責任は続きます。出身中学校の推薦とは、中学校と高等学校の信頼関係にかかわります。入学後も推薦に値するような高校生活を送れるように努力して下さい。併願優遇制度も同様です。1学期に配布した「推薦受験（検）の認定について（一中の目安）」をもう一度よく確認して下さい。（次頁に再度掲示します）

推薦受験（検）資格の認定について

1. 学校推薦の趣旨

学校推薦とは、第一に都立・私立高校の選抜試験制度の1つとして、学校長が責任をもって推薦できると認めた生徒に対して推薦状を添えることを条件として、受験（検）資格を与えるものです。第二に、推薦制度を利用する場合、都立・私立を問わず、まず生徒本人が入学したい第一希望の学校であること、入学する意志が強く、学校生活をまじめに取り組んでいることが、推薦の前提条件となります。さらに、各学校が示す学力面をはじめとする推薦基準を満たしていることも必要条件です。

推薦制度は、本校の校長から、当該高校の校長へ推薦するものであり、推薦制度を濫用すれば、今後その高校との信頼関係が崩れ、つながりがなくなるだけではなく、本校の下級生の来年度以降の受験に悪影響を及ぼすことにもなりかねません。制度を利用しようと考えている生徒は、当然、日頃より学校生活を振り返り、本校の目指す生徒としてふさわしい自覚と言動を心がけてほしいことは言うまでもありません。

2. 推薦認定の基準

都立・私立推薦制度の利用希望者は、以下の項目をすべて満たしていることが条件となります。

なお、推薦可・不可の認定については、学校全体で検討し、最終決定は学校長が行います。

① 志望校（学科、コース）に対する興味・関心があり、志望目的が明確でその理由が適切であること。

- (1) 志望校を見学している。
- (2) 志望理由や入学後にやりたいことがはっきりしている。
- (3) 入学後、卒業まで就学する決意を持っている。
- (4) 入学後、学習活動だけでなく、生徒会・行事・部活動等に参加し、高等学校卒業までその意欲を継続することができる。

② 学校生活を健全かつ良好に過ごしていること。（中学校だけでなく高等学校においてもその姿勢が守られる）

- (1) 飲酒、喫煙、万引きなどの法に触れる行為をしていない。
- (2) 染髪、ピアス、化粧など学校の規律を乱していない。
- (3) 標準服の異装等、服装の乱れがない。
- (4) 時間が守れ、遅刻、欠席が少ない。
- (5) 自分の言動に責任感が伴っている。（当番活動などがきちんと行える。）
- (6) 学校の指導を素直に受け入れることができる。
- (7) その他、人間関係のトラブルをおこさないなど、学校生活を送る上で問題がない。

③ 学習状況が良好であること

- (1) 忘れ物が少ない。
- (2) 宿題や提出物に丁寧に取り組んでいる。
- (3) 学習に対し意欲的であり、授業に真剣に取り組んでいる。

④ ①～③の条件に加えて、高等学校の定める基準を満たしていることが必要となる。

◇今後の提出物・手続きなどについて



1 志望校が決定したら

I 担任に以下の書類（該当するもの）を提出してください。

① 推薦願

都立推薦受検、私立推薦受検、私立の併願優遇制度を利用した受検など、中学校の推薦や入試相談を必要とする受検（検）を希望する場合、推薦願・優遇願・制度を利用する届の提出が不可欠です。これらの提出書類は、依頼書や誓約書の役割をもちます。未提出の場合、私立高校の入試相談を行うことができず、その方法での受検できなくなります。個人の都合を優先するのではなく、学年全体としての取り組みに合わせ、期日は厳守してください。

〈推薦願の種類〉

- ◆ 都立推薦受検 ⇒ 「都立推薦願」
- ◆ 私立推薦受検 ⇒ 「私立推薦願」
- ◆ 私立第一志望優遇 ⇒ 「私立推薦願」
- ◆ 私立併願優遇受検 ⇒ 「私立併願優遇利用届」

⇒ 私立の場合、より難しい科やコースへのチャレンジの機会を設定する例があります。入試相談の相談用紙にチャレンジの有無やコースの名称なども記入しなければならないことがあるため、希望する場合は推薦願や併願優遇利用届などに、関連する内容を記入していただきます。

② 調査書作成願

受検（検）の日程や出願に必要な書類等を確認するためのものです。全員が必ず提出します。調査書作成願をもとに書類を作成するので、正確に記入し、期日までに必ず提出してください。

③ 私立高校の調査書用紙・推薦用紙等

私立高校は調査書の様式が指定されており、以下の3通りのいずれかになります。

ア、その高校独自の様式 イ、私立統一様式 ウ、都立用と同じ様式

アとイの場合は、私立の募集要項に同封されている調査書用紙を提出してください。ウの場合は調査書用紙の提出は不要です。その他、推薦用紙等の中学校で記入・作成する書類はすべて提出してください。

④ 都立高校独自の書類

文化・スポーツ等特別推薦の「文化・スポーツ等特別推薦書」、チャレンジスクールの「志願申告書」等、高校が配布している書類は、各自で高校において入手、もしくは東京都教育委員会ホームページから取得し、必要に応じて提出してください。

II 延納の有無や手続きの方法を確認してください

- ① 延納が可能な場合でも、すべての学校に「延納手続き」が必要とは限りません。手続きの締め切りが「都立高校一次募集発表翌日まで」という場合は、延納手続きは不要です。
- ② 手続きの方法は、入学願書に都立の志望校名を記入するものや、別途用紙に記入するものなどがあります。中学校長の押印が必要な場合や中学校で書類を作成する場合は、担任にその旨を伝え、書類を提出してください。

2 受験写真

12月8日に学校で撮影します。私立高校を複数受験する場合や、インターネット出願で写真のデータが必要な場合は、データCDを購入することもできます。希望される場合は撮影時に集金します。また、焼き増し注文も可能です。なお、入学手続きにも写真が必要です。できあがった写真は12月20日までに中学校に届けられる予定です。受験写真撮影のお知らせについてのお知らせは近日中に配布します。

※学校で撮らなくてはならないという趣旨のものではありません。個人で撮影される場合には、申し込まなくても問題ありません。

3 手続きにおける氏名等の記載について

願書や調査書には原則として住民票に記載されている氏名を記載しなければなりません。もしこれらが異なると、最悪の場合、合格を取り消されることがあります。そのため、氏名、生年月日、住所、電話番号、および保護者氏名を確認させていただきます。後日配布する「調査書等の記載事項確認のお願い」に記入し、期日までに提出してください。

注意 1…住民票と同じ表記（漢字）で書かなければいけない書類

- ① 入学願書
- ② 当日の試験答案ならびに当日試験会場で提出する書類
- ③ 調査書
- ④ 推薦書や健康診断書

注意 2…上記「注意 1」の書類は、住民票が旧字体で記載されている場合、常用漢字で表記しても差し支えありません。ただし、**注意 1**の書類はすべて同じ表記で統一されている必要があります。常用漢字で表記する場合は、すべて常用漢字で統一してください。

(例) 澤→ 沢 邊→ 辺 齊→ 斉 惠→ 恵

4 調査書に記載する「諸活動の記録」について

中学校から高等学校へ提出する調査書には、諸活動の記録の記載が求められています。都立高校受検の場合、自己PRカードとの整合性が必要なため、記載するにあたり、保護者のご了承のもと、記載事項入力作業を進めます。後日配布する「諸活動の記録申告用紙」に記入し、期日までに提出してください。

(令和6年度東京都立高等学校入学選抜実施要項より)

特別活動等並びにその他の学校内外の活動のうちから、当該志願者において特筆すべき活動を取り上げ、その活動の事実や実績を、所見を除いた客観的な記録として記入する。また、顕著な成果のある活動だけでなく、次のような活動についても記入することができる。

- ア 当該志願者が積極的な態度や意欲をもって取り組んでいる活動
- イ 当該志願者の人間形成上好ましい影響のある活動や他の生徒に好ましい影響を与えている活動
- ウ 当該志願者の中学校3年間における継続的な活動又は各学年における特筆すべき活動

(例) ・図書委員として「図書だより」の作成を担当（第3学年）
・〇〇検定〇級を取得（第3学年）

⑤ 地域優遇・指定校推薦

三鷹地域を指定する形で、若干の基準の緩和をする学校が近隣にはあります。私立高校の学校相談会などを活用して希望校での制度の有無を確認し、受験を希望される場合は面談等で担任にご相談ください。また、高校が示す出願資格に該当し、中学校長が推薦を認めた生徒1名が指定校推薦枠として受験することができます。今年度は、「明治大学附属明治高等学校」の指定校推薦がきています。いずれも成績などに関する基準があります。希望する場合は、第2回進路面談等を通じて担任に申し出てください。また、

◇受験(検)の基本的な手順

① 出願書類の準備

要項に従って、書類の作成や受験(検)料の納入などを行います。

② 出願

受験(検)校に願書を提出する。

- 受験票を受け取ります。受験番号が決まります。
- 対面での提出になる場合、基本的には生徒本人が行きます。
- 私立高校はインターネット出願か、対面での提出による出願となります。都立高校は、推薦、第一次募集・分割前期募集を行うすべての学校がサイト上での出願となります。(志願変更を除く)

※都立高校の推薦に基づく選抜、学力検査に基づく選抜の第一次募集・分割前期募集では、出願に必要な書類は中学校から高校に郵送します。出願の準備が必要なのは「自分一人ではない」という基本的な常識に基づいて、中学校・他生徒の差しさわりにならないように、中学校から指示された期日までに必ず準備しましょう。

③ 入学試験

受験(検)校に行き、試験を受けます。

④ 合格発表・手続

受験(検)校に合格発表を見に行きます。

- 都立高校はそれぞれの学校内に掲示するとともに、ウェブサイトへの掲載を実施します。
- 私立高校は掲示や郵送、インターネットでの発表など様々です。
- 合格した場合は入学手続きをします。
- 第一希望校の発表を待つ場合は、納入金の延期(延納)の手続きを行なうこともあります。

※私立高校を複数受験する場合は、入試日が重なっていないか、手続きに無理がないかなど、日程を必ず確認してください。

入試・発表までの流れ

推薦入試を利用しようと考えている人（行きたい高校がはっきりしている人）は、次の流れで動いていきます。

1 志望校を決める

- 様々な条件を考慮して志望校をしぼり込んだら、実際に高校を見学して意思を固めていく。
- 高校によっては、設定された高校説明会（生徒・保護者対象）への参加を条件にしているところもあるので注意する。（説明会には相談窓口を設けているところが多いので、利用するとよいでしょう。）」

2 意思を表明する

- 第3回進路希望調査に、志望校として考えている高校名をあげ、推薦入試・優遇制度の利用の希望を明らかにする。

3 10月進路面談

- 希望する高校の基準と、本人の成績等をもとに進路面談で相談をする。
- 第3学年（2学期）の成績（内申）によって、どのようにするかということの確認もする。
（1学期の成績より1上がったら、2上がったら、1下がったら・・・受験校をどうするか、12月までに考える）
- 担任の先生が、12月の面談までに上がった高校名について基準を調べ、本人の成績等との比較・検討を学年の先生全員で行う。

4 12月進路面談

- 2学期の成績と、第4回（最終）進路希望調査（10月の進路面談終了後に配布予定）に基づいて、志望校の再確認をする。（2学期の成績は、1学期と2学期の成績を総合して出しています。）
- 推薦は、本人・保護者の意思の確認がないと手続きを進められない。また、手続きが進行（高校側との連絡等）したら変更はできないので、家庭で、よく相談の上、「**推薦願**」を中学校に提出をする。（推薦願は、12月の進路面談のときに手渡しします。）
- 面談期間中の午後を利用して、志望校の入試要項や願書等を入手し、出願の準備をする。

5 12月15日以降入試相談

- 「**推薦願**」の提出を受けて、12月15日より学年の先生が分担して高校に出かけて入試相談を行い、推薦入試希望の生徒（併願優遇・第一志望についても：後述）の名簿や書類を提出する。
（この相談で、**推薦入試の受験資格を得ることが**できる。認められなかった場合は、推薦入試の制度を利用できないので、別の入試方法（第一志望受験・一般入試で受験することが多い。）を検討する。）

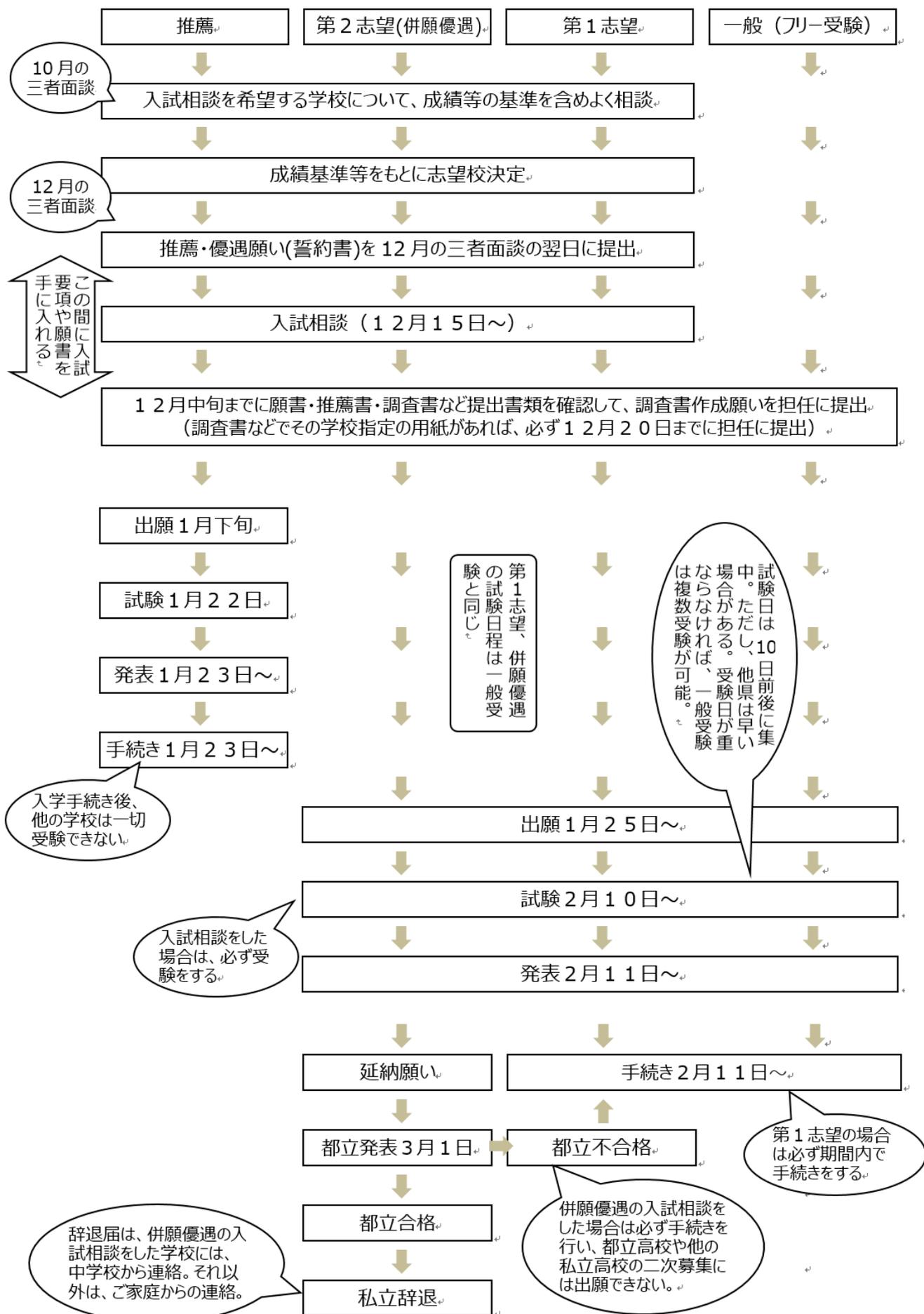
6 準備

- 面接・作文などの練習をして入試に備える
- 不合格の場合、すぐに一般入試を考えなければならない。また、合格後のことを考えて（クラス分けテスト等も考慮し）、しっかり最後まで学習に取り組む。

7 出願・入試・手続き（各私立高校の要項で確認する）

- 出願：1月18日頃から
- 入試：1月22日頃から
- 発表・手続き：その日の夕方、または翌日等すぐ
- ※合格の場合、手続きを確実に済ませる。（**他校の受験・進学はできない**）
- ※合格手続き後、クラス編成テストや入学後のこと、これから都立受験・一般受験をする友だちもいるので、最後まで気を引き締め学習や学校生活にしっかり取り組む。（過去には、問題を起こして、合格が取り消しになったこともあります。）

入試の流れ



生徒のみなさんへ！

- (1) 表に「親展」と書かれた封筒や郵便物は、その宛名の人以外は開封してはいけません。入試関係の「親展」の書類も開けてしまうと無効となり、受験できない可能性もあります。宛先をよく確認してから、開封してください。また、提出物は余裕をもって、締め切りよりも早く提出する習慣をつけましょう。大切な書類への記入漏れや訂正などにも対応できます。
- (2) 入試における得点及び学力検査における答案の開示などについては、第3学期に事前指導などの時間を使って説明します。不合格者の開示を優先する形で進められることになります。

(不合格者)	推薦、一次・前期	3月5日(火) 受付開始
	後期・二次	3月18日(月) 受付開始
(合格者)	全検査	5月1日(水) 受付開始
※合格者・不合格者とも受付終了日 8月30日(金)		
※交付日から3か月を交付期限 ※窓口ではなく電子申請による請求も可能		

- (3) 受検者の検査結果は、中学校においても次年度に向けての重要な資料となります。願書裏面に、中学校への情報提供に同意することを示す生徒署名欄がありますので、ご理解ご協力をお願いします。

保護者の方へのお願い ※次の事柄を、ぜひお子さまにご指導ください。

① 進路希望や不安が先行して、平常の努力を怠っていないか

学校での授業に真剣に取り組み、自分の目標に向かってコツコツと努力していく姿勢が進路決定の最大のポイントになります。また、努力していく過程での習慣が上級学校での学習態度につながります。

② 基本的な生活習慣がしっかり身についているか

日常での中学生らしい服装、言葉遣い、態度、行動が受験生としての基本条件です。受験は、学力だけが判定されるのではなく、その生徒のもっているすべての要素が試されます。従って、付け焼刃的な準備はまったく役に立ちません。面接で不合格にする学校もあります。また、推薦による受験の場合は、六中の全教員がその生徒を推薦することになり、今後、後輩の進路にも大きな影響を与えるものです。きちんとした生活態度を身につけるよう指導していきます。ご家庭でのご協力をお願いいたします。

③ 最後の決定は、ご家庭でお子さまを交えて相談してください

学校は、受験情報などを提供し相談に応じますので、遠慮なく相談してください。ただ、最終的な決定は、ご家庭でお子さまと相談のうえ決定していただきたいと思います。お子さまの気持ちをしっかりと聞き、話し合ってください。

④ 進路関係の書類や提出物は、提出期限にご注意ください

募集要項などは、必ず目を通し、ミスのないようにご注意ください。しばしば、延納願い等の手続きミスがあります。お子さまと一緒に要項を読み、確認し合っておくことが大切です。なお、昨年度から都立高校の推薦に基づく選抜、第一次募集・分割前期募集においてインターネットを活用した出願が導入されましたので、紙の願書の提出は原則ありませんが、一部の高校については、出願に必要な書類をとりに行かなければいけない学校があります。また、私立高校を受験される場合は、その学校に行き、募集要項・願書などを購入してください。出願時に、その学校独自の調査書様式を提出しなければならない場合は、必ず担任に提出してください。

◇2学期進路関係の予定

月	日	曜	主な予定	
10	20	金	第3回 到達度テスト	
	26	木	第2回 進路説明会	
	27	金	氏名確認、諸活動の記録 記入用紙配布 (11月7日締切)	
	30	月	三者面談 (～11月7日) * 私立高校の推薦受験や併願優遇制度利用の意向、現状の把握、進路に対する考えなどを中心に話し合います。面談までに志望校を絞り込んでおいてください。面談後、2学期の内申(暫定)が出たときにはすぐに決定できるようにしておきます。	
11	8	水	高校の先生の話の聞く会 第4回(最終)進路希望調配付 (27日締切)	
	14	火	2学期期末考査 (～16日)	
	17	金	受験面接対策講座	
	24	木	調査書作成願 (12月20日締切) 配布 仮内申告知	
	26	日	ESAT-J 受験日 (中旬に受験票等が届きます)	
12	1	金	就職希望者は応募書類を提出 * 求人は10月頃からあるので希望者は担任に相談してください。	
	4	月	〈最終〉三者面談 (～11日) * 受験校や受験方法などを確認します。面談までにご家庭で相談し、最終決定をしておきます。 * 推薦願等を配布します。(面談翌日提出) 面接練習開始	
	8	金	受験写真撮影 (6校時～、希望者)	
	15	金	私立高校入試相談 (～17日頃) * 推薦入試や併願優遇に関して、高校と打診、相談します。	
				* 私立高校受験希望者は、すみやかに高校の願書や募集要項を入手し、調査書に指定の用紙があるかどうかを確認してください。 * 私立高校指定の調査書及び調査書作成願は12月20日(水)までに担任に提出してください。 * 都立高校については、出願に必要な書類は中学校に送られてきます。ただし、学校独自の書類が必要な高校もあるので、必ず各自で確認をしてください。
	20	水	都立高校出願サイトの登録開始	
冬休み	* 都立推薦入試の出願準備を行います。受験する高校が決定次第、願書の作成や受験料の納付をしましょう。都立推薦受験者は、自己PRカードの清書をして1月9日に担任に提出してください * 受験校の過去の入試問題などを利用して、入試本番に向けたトレーニングを繰り返し行い、学習の総まとめをしてください。			
1	必要書類の提出 (厳守)			
	12	金	都立推薦出願サイト登録 第一中学校の締切	
	18	木	都立推薦出願サイト出願申請完了 (午後5時まで)	

資料1 出願書類についての注意事項

第1-1 入学願書等の記入方法

- (1) 入学願書は、裏面に印刷された「入学願書記入上の注意」に従って記入する。
- (2) 入学願書に記入する氏名等の文字は、住民票に記載されているものを使用する。ただし、住民票に記載されている文字が常用漢字表外字の文字である場合、その文字を常用漢字で代用しても差し支えないが、入学願書、受検票、調査書及び氏名記載のある成績一覧表（以下「原簿」という。）の表記は統一すること。

（例 澤一沢、 邊一辺）

外国籍を有する志願者も、住民票に記載されている氏名（以下「本名」という。）を入学願書の志願者氏名欄に記入することとなるが、住民票に通称名が表示されており、受検票に通称名のみを記載を希望する者は、入学願書の志願者氏名欄、調査書の氏名欄及び原簿の氏名欄には、本名の後ろに（ ）を付して通称名を記入する。その場合は、受検票の受検者氏名欄には、入学願書に併記した通称名のみを記入で差し支えない。

なお、都内の里親又は小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム事業）委託生徒で通称名（里親の姓）による出願を希望する志願者は、入学願書、受検票、調査書及び原簿の氏名欄には、通称名（里親の姓）を記入する。その場合は、出願時に「措置通知書」の写しを提出すること。

(例1) 外国籍を有する志願者の場合の入学願書の志願者氏名欄	
フリガナ	アイシャ アリ
氏名	A I S H A A L I
(例2) 外国籍を有する志願者（漢字併記）の場合の入学願書の志願者氏名欄	
フリガナ	チャン アイ ピン
氏名	Z H A N G A I P I N G 張 愛 平
(例3) 外国籍を有する志願者で、本人が通称名の使用を希望する場合の記載例	
(1) 入学願書の志願者氏名欄（本名と通称名を併記。両方にフリガナを振る。）	
フリガナ	チャン アイ ピン (トウキョウ タロウ)
氏名	Z H A N G A I P I N G (東 京 太 郎)
	└──────────┘ └──────────┘
	本 名 通 称 名
(2) 受検票の受検者氏名欄（通称名のみで可）	
フリガナ	トウキョウ タロウ
受検者氏名	東 京 太 郎
	└──────────┘
	通 称 名
(3) 調査書の学籍の記録・氏名欄（本名と通称名を併記。両方にフリガナを振る。）	
フリガナ	チャン アイ ピン (トウキョウ タロウ)
氏名	Z H A N G A I P I N G (東 京 太 郎)
	└──────────┘ └──────────┘
	本 名 通 称 名

- (3) 保護者氏名欄には、保護者（本人に対し親権を行う者であって、原則として父母、父母のどちらかがいない場合は父又は母のどちらか一方、親権を行う者が死別等でない場合は後見人をいう。以下「保護者」という。）の氏名を記入する。保護者が父母である場合、父又は母の氏名（父、母のどちらでもよい。）を記入する。

なお、保護者と別居して出願を認められた者についても、原則として保護者の氏名を記入するが、行方不明又は外国等の遠隔地居住などのため記入できない場合は、次のア又はイの氏名の記入を認める。

ア 実際に養育している成人のおじ、おば、祖父母、兄姉、知人等

イ 職員を海外に派遣する等の目的で企業内に設けられた寮等に居住（入居）している場合は、その施設の長

- (4) 都内の中学校を卒業する見込みの者で、東京都立高等学校入学選抜における検査結果を、在籍する学校における進路指導や学習指導に活用するために、都立高校から在籍する学校へ提供することに同意する場合は、出願ごとに、入学願書の個人情報の提供に関する同意署名欄に志願者本人が自署した上で、志願する都立高校の校長に提出する。

第1-2 自己PRカード及び志願申告書等の記入

自己PRカード(様式12)は、志願者本人による手書き又は電子ファイルへの入力及び印刷を原則とするが、事故や病気、障害等により志願者本人による記入が困難な場合は、保護者等による記入を認めるものとする。その際、自己PRカードの下端に、その理由及び記入者と志願者との関係を明示する。

なお、志願申告書及び自己申告書についても同様とする。

第1-3 自己申告書の提出

欠席の事情を説明する必要がある場合など、都立高校に理解してほしい事情を説明する必要がある場合、志願者は、自己申告書(様式13)を志願する都立高校の校長に提出することができる。

なお、自己申告書は、志願者及び保護者が記入し、厳封して出願書類とともに志願する都立高校の校長に提出する。

第1-4 具申書の提出

(1) 具申書について

ア 東京都立高等学校入学選抜実施要綱第1-3-1(3)若しくは第2-3-1②<全日制を志願する者>(1)に該当する者又は第2-3-2(1)都内在住者で都外の中学校に在学している者で、保護者と同居していない場合に提出する。ただし、第2-3-2(1)都内在住者で都外の中学校に在学している者は、父母のどちらか一方と同居している場合も提出する。

イ 提出方法

(7) 具申書(様式14)は、申請者が2部作成し、在学している中学校の校長に提出する。

(4) 中学校の校長は、受理した具申書の内容が事実であると認めたときは、校長証明欄に氏名を記入し公印を押印の上、申請者に1部を交付し、他の1部は中学校で保管する。

(7) 申請者は、中学校の校長が証明した具申書を入学願書に添えて直接提出する。

(2) 都内の里親又は小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム事業)委託生徒は、具申書に代えて「措置通知書」の写しを提出する。

(3) 児童福祉施設に入所している東京都の措置児童は、具申書に代えて、当該児童福祉施設の長からの「意見書」を提出する。

第1-5 入学考査料の納付方法

推薦に基づく選抜・第一次募集・分割前期募集・海外帰国生徒の選抜の入学考査料は、出願サイト上での決済又は所定の納付書(都立高校全日制推薦受検用、都立高校全日制受検用(推薦・海外帰国以外)、都立高校全日制海外帰国受検用、都立高校定時制推薦受検用、都立高校定時制受検用(推薦以外))により、納付する。また、その他の募集の入学考査料は、所定の納付書(都立高校全日制受検用(推薦・海外帰国以外)、都立高校定時制受検用(推薦以外)、都立高校通信制受検用)により、納付書裏面に記載された納付場所に納付する。

なお、入学考査料を納付するに当たっては、次のことに留意する。

(1) 納付書は所定の用紙を使用する(コピーしたものは使用できない。)

(2) 納付書の金額を訂正したり、前年度以前の納付書を使用したりしない。

(3) 納付書の※欄は、必ず記入してから納付する。

(4) 納付期限は、それぞれの入学願書受付日の最終日とする。

(5) 一旦納付された入学考査料は還付しないので、入学考査料は、都立高校への志望が確実にってから納付すること。

また、志願先の高校の入学考査料の金額を十分確認の上、納付すること。

(6) 出願ごとに入学考査料を納付する。ただし、取下げ後の再提出時は必要ない。

(7) 指定された納付場所とは次に掲げるものをいう。

ア 都内に店舗のある銀行・信託銀行・信用金庫・信用組合などで、都の公金を収納する金融機関(「都の公金収納取扱店」の掲示のある店舗)

イ 都内のゆうちょ銀行の営業所及び郵便局又は関東(山梨県を含む。)に所在するゆうちょ銀行の営業所及び郵便局

(8) 定時制課程及び通信制課程志願者で、営業時間終了等で金融機関に納付できない場合は、入学願書提出の際に志願する都立高校の窓口において、現金で納付する。

第1-6 諸用紙類の配布

入学願書等入学選抜に関する諸用紙類は、令和5年12月1日(金)までに区市町村教育委員会に配布する。

国際バカロレアコース(国際高校)、定時制課程単位制高校のうち、チャレンジスクール、一橋高校、浅草高校、新宿山吹高校、荻窪高校、通信制課程の高校及び海外帰国生徒等の入学選抜を行う高校の入学願書等については、各都立高校が印刷し配布するため、志願する都立高校に連絡して、必要書類を取り寄せること。

(様式4) 令和6年度 東京都立高等学校入学願書 [全一次・分割前期 定一次共通様式]

東京都立 **西新宿** 高等学校長 殿

出願区分: 全一次 分割前期 定一次

令和6年度 都立高等学校受検票 [全一次・分割前期 定一次共通様式]

貴校への入学を志願します。

志望校(第1志望)	西新宿 高校	受検番号	
志望校(第2志望)	普通 (分科)	変更校	
志望校(第3志望)	普通 (分科)	変更校	
志望校(第4志望)	普通 (分科)	変更校	
志望校(第5志望)	普通 (分科)	変更校	

フリガナ: シンジウク タロウ

氏名: 新宿 太郎

生年月日: 平成30年 12月 6日 15歳

現住所(出願時の住所): 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

在学(出身)中学校名: 新宿区立新宿中央 中学校

卒業年月: 令和6年 3月 卒業

保護者(出願時の住所): 〒志願者と同じ (電話番号) 03(5320)6745

志願者写真: 正面上半身脱帽 (4cm×3cm)

検査日時及び時間割

1 検査日時及び時間割

令和6年2月21日(水) 午前8時30分集合

(1) 時間別(定時制成人受検者特別措置の受検者を除く。)

第1時間 国語 午前 9時00分 ~ 午前 9時50分

第2時間 数学 午前 10時10分 ~ 午前 11時00分

第3時間 英語 午前 11時20分 ~ 午後 0時10分

第4時間 社会 午後 1時10分 ~ 午後 2時00分

第5時間 理科 午後 2時20分 ~ 午後 3時10分

2 合格発表日時

全日制 令和6年3月1日(金) 午前8時30分 (合否開会サイト上で発表※)

定時制 令和6年3月1日(金) 午前8時30分 (合否開会サイト上で発表※)

※ 合格発表は合否開会サイトで行う予定です。

※ この受検票は、合格通知書を受領する時及び得点等の開示を請求する時に必要なので捨てないこと。

(受検票・裏) <入学願書提出期間> 令和6年1月31日(水)から2月6日(火)まで

(のりしろ)

領収証書貼付欄

貼る前に領収証書を確認してください。

1 金融機関(銀行・郵便局等)の領収印はありますか?

2 端の色と金額は?

・全日制の人は、黒色(2,200円)です。

・定時制の人は、グレー(950円)です。

入学考査料は、納付書裏面に記載の納付場所
で納付してください。ただし、納付したものは、
いかなる理由でも還付しません。

入学考査料納付後の領収証書は、入学願書受
付の際に必要なので、領収証書貼付欄に貼り付
けてください。

(のりしろ)

(「様式4」の裏面) 入学願書記入上の注意

- 高等学校長の宛名
- 入学願書及び受検票の出願区分の欄等
- 第1志望の欄
- 第2志望~第5志望の欄
- 志望校「変更後」の欄
- 志願者の氏名の欄には、住民票に記載されているおりの氏名を記入してください。
- 生年月日の欄の年齢は、令和6年3月31日現在で記入してください。
- 住所の欄には、例えば、「西新宿二丁目8番1号」は「西新宿2-8-1」と記入しても構いません。
- 出願日以降入学式までの間に都内に転居することが確かな者は、転居予定先の住所(入学式までに転居予定の人は入学後の住所)欄に記入してください。
- 在学(出身)中学校名の欄には、都外の中学校の場合、道府県名から記入してください。
- 保護者の現住所が志願者の現住所と同じ場合は、「志願者と同じ」と記入しても構いません。
- 成人受検者特別措置希望欄(定時制志願者のみ)
- ルビ振り等特別措置希望欄
- 保護者氏名は必ず自署してください。
- 都内の中学校に在学していない者は、中学校名、中学校長名、中学校の電話番号の記入及び中学校長の公印の押印は必要ありません。
- 墨のペン又はボールペンで記入してください。ただし、摩擦に伴う温度変化等により消色するインクを用いたペン又はボールペンは、使用しないでください。
- ※欄は記入しないでください。

個人情報の提供に関する同意署名欄(任意)

私は、東京都立高等学校入学考査(第一次募集・分割前期募集)における検査結果の全て【(1)受検番号(2)氏名(3)在籍中学校名(4)学力検査の得点(5)面接の得点(6)小論文・作文の得点(7)実技検査の得点(8)志願申告書の得点】を、在籍する学校における進路指導や学習指導に活用するために、都立高等学校から在籍する学校へ提供することに同意します。

令和 年 月 日 (署名)

(注意) ※ 上記の内容に同意する場合のみ、志願者本人が自署してください。
※ 在籍する学校に提供された入学考査結果は、個人情報としてその秘密を厳守し、進路指導や学習指導以外の目的には一切使用いたしません。
※ 都内の中学校に在学していない者は、記入の必要はありません。

(様式2) (A4判)

受検番号

文化・スポーツ等特別推薦書

年 月 日

東京都立_____高等学校長 殿

立 中学校長

公印

本校に在籍する下記の者を「文化・スポーツ等特別推薦」に推薦します。

記

氏 名 _____ 年 月 日生

志望する種目等	
志望するコース・科(分野)・部	コース・科(分野)・部

推薦理由

	大会名等	学年	実績・結果
主な実績			

(注意) 1 「推薦理由」の欄は、志望校・志望学科等への適性、中学校における学習の状況、道徳、特別活動、校外における活動の状況等のうちから特に顕著なものに加え、志望する種目等に対する取組状況や意欲等についても併せて記入する。
2 一般推薦に同時に出願する者は、一般推薦書を併せて提出する。

(様式13) (A4判)

受検番号

自己申告書

年 月 日

東京都立_____高等学校長 殿

氏 名 _____

保護者氏名 _____
(自署)

貴校への志願に当たり、理解してほしい事柄について下記のとおりお知らせします。

記

1 本人記入欄

高等学校に理解してほしい事柄

2 保護者記入欄

高等学校に理解してほしい事柄

(注意) 1 志願者が手書き又は電子ファイルへの入力及び印刷により作成する。手書きにより作成する場合は、黒のペン又はボールペンで記入する。ただし、摩擦に伴う温度変化等により消色するインクを用いたペン又はボールペンは、使用しないこと。
2 障害のある受検者に対する措置については、「学力検査等実施上の措置申請書(様式24)」による申請が必要となります。

(様式16) (A4判)

志願変更願

東京都立_____高等学校長 殿

氏 名 _____

上記の者は貴校に入学を志願しましたが、志願変更したいので、出願書類を返却して下さるようお願いいたします。

年 月 日

保護者住所 _____

氏 名 _____
(自署)

上記のことを承知していますので、お願いします。

所在地 _____
中学校名 _____
校長名 _____

公印

(注意) 都内の中学校に在学していない者については、中学校長の確認は必要ありません。

(様式24) (A4判)

受付番号

学力検査等実施上の措置申請書

年 月 日

東京都立_____高等学校長 殿

フリガナ _____
志願者 氏 名 _____

生年月日 _____年 _____月 _____日生

保護者 住 所 _____

氏 名 _____
(自署)
電 話 _____

東京都立高等学校入学選抜実施要綱の規定により、障害のある受検者に対する措置のうち、学力検査等実施上の特別措置を下記のとおり申請します。

記

1 志願校名 東京都立_____高等学校(全・定) _____コース・科(分野)・部

2 措置内容 (後記に際して希望する措置に○を付け、()内は記入してください)

(1)検査時間 (科目名)を_____分()分にしてほしい。⇒(別室受検になります。)
※(例)国語(45分)は最大30分、他の科目は最大15分までです。

(2)検査会場 ①普通教室でよい(ア 前の方 イ 出入口近く ウ 1階 エ ()) ②特殊な机
③別室受検 ④家族による送迎 ⑤車椅子の使用 ⑥介助者等の同行
⑦()

(3)検査方法 (例えば、問題・解答用紙の拡大や縮小における配慮などを具体的に記入してください)

(4)その他 ①器具の持込み(例 補聴器、ルーペ、ICカード等) ()
②その他 ()

3 申請理由 (障害の内容や程度などを含めて、上記2の措置を希望する理由を具体的に記入してください)

4 中学校長記入欄

上記のとおり、受検上の措置が必要であると考えます。

年 月 日

校長名 _____ 立 _____ 中学校長 _____

学校所在地 〒 _____ 学校の電話番号 _____

公印

(注意) 1 本申請書は、中学校長を經由して、令和5年12月15日(金)までに志願する都立高校校長に提出してください。
2 申請後、都立高校の学力検査以前に他校に入学手続を終えた場合、直ちに中学校長に連絡してください。
3 中学校に在学していない者は、中学校長を經由する必要はありません。
4 推薦に基づく選抜においても、本申請書を提出することができます。その際は、標題の「学力検査等」に二重線を引き、「推薦通知」と書き換えてください。

